

金光学園

# やっなみ

2020.3



256号



# 卒業式





## 国際化教育の取り組み



### 体験の大切さ

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。  
生徒のみなさんは校長先生のお話を聞く機会がたくさんあったと思います。何が印象に残っているでしょうか？ 保護者の方も行事の時や学年会などでお話を聞かれたかと思えます。

私もやつなみ保護者会の役員の2年間に、校長先生のお話を聞く機会が多くありました。

- その中で
- 人が文字を読む行為では10%
- 言葉を書く行為では20%
- 視覚で見る行為では30%
- 聞くと見る両方では50%
- 話したり書くことで70%
- 体験することにより90%

本を読んだり、授業を受けるだけでは記憶に残ることは少ないですが、話したり、体験したりすることで記憶は残っていくというお話でした。この話を聞いていただけでは覚えていなかったと思いますが、資料にメモをして、帰宅後子どもたちにも話したことで、私の記憶に70%残ったのではないのでしょうか。そして記憶に残ったおかげで、やつなみ巻頭言の原稿になりました。

このように、子どもたちにも一方的な勉強の押し付けでなく、例えば、英語は授業で教えてもらうだけでなく、習った言葉を実際に外国人と会話の中で使うという体験により、記憶に残っていくと思います。

金光学園ではそのような体験できる学習を多く取り入れていきます。  
その体験がどうぞ記憶に残りますように。

(金光学園やつなみ保護者会副会長)

### 三原 一恵

### 目次

巻頭言	1
第72回高校卒業式	2
道(26)	28
メタセコイヤ	30
活躍おめでとう	31
やつなみ保護者会のページ	33
活躍する卒業生	36
留学生紹介	38
ある日のホームルーム	40
中1イングリッシュリサイタル	42
生徒入賞作品	43
中2学年集会	44
会報	47
生徒会活動	48
学園だより	54
教室の窓から	56
編集後記	

# 第72回高校卒業式

## 式辞

校長 金光 道晴



卒業生の皆さん、保護者の皆様、本日はおめでとうございます。  
今日の卒業式は卒業生の皆さんの3年ないし6年間の最後の学園教育の場として、最も大切な日と考え、在校生とともに、心を込めて準備し、挙行させていただきたいと願っておりますが、数日前

に岡山県教育委員会から、新型コロナウイルス対策として、卒業式には在校生は出席せず、ご来賓は招待せずに挙行するという通達がありました。

金光学園は私立学校ですので、必ずしもその制約を受けるものではありませんが、本校としては、この通達を受け、卒業式を挙行させていただくことになりました。とりわけ今年は50名を超える例年より多くの来賓の方の出席予定で、在校生もお世話になった卒業生の皆さんを心を込めて送り出したいという熱い思いがあったのですが、このような形になってしまいました。また2部の祝宴につきましても、場所を小体育館に移し、昼食を共にしながら、学園生活を振り返って、和やかな時間を皆さんと過ごしたいと思っておりますが、今回は形を変えて、この場で時間を短縮して2部を開催することになりました。ご理解いただきたい

## 卒業式の概要

今年度の卒業式は新型コロナウイルスの影響により、在校生や来賓の参加を取り止めるとともに、規模を縮小して実施した。

2月29日朝8時5分、卒業生196名は、金光教本部広前に学園生徒として最後の参拝をし、中村悠人さんが代表で卒業のお礼と新しい生活へ向けての決意をお届けした。

第1部は、ほつま体育館にて10時に開式。国歌斉唱の後、金光道晴校長より総代の妹尾侑樹さんに卒業証書が授与された。続いて、校長式辞の後、和泉正一理事長より記念品として金光教教典抄「天地は語る」と前金光教教主のお筆になる「金光学園の合言葉」の

と思います。

さて、改めて保護者の皆様、本日は誠にありがとうございます。18年前にご両親の大きな感動の中で、元気な産声をあげたお子様はこのように立派に成長されました。初々しく、あどけない新入生として、入学してこれたのも、過ぎ去ってみればついこの前のような気がいたします。保護者の皆様には、こうしてお子様方が、大きく成長され、今日の日を迎えられたことは感慨ひとしおのことと存じます。お子様の入学以来、今日までいただきました学園教育へのご支援とご協力に対しまして、心からの御礼を申し上げますとともに、お祝いを申し上げます。

196名の卒業生の皆さん、本日は卒業おめでとうございます。今朝はこの卒業式に先立ち、学園生として最後の金光教本部広前への参拝をし、代表の中村悠人君がこれまでの御礼とこれからの願いをお届けし、教主金光様からは「本日はおめでとうございます。ただ今、代表の方がお願いされましたように、これからは学園生活で培われたものを大切に、皆さんそれぞれの進路に向かって、世話にな

るすべてに礼をいう心もって進んでいかれますよう、祈つてやみません」とのお言葉をいただきました。そして先ほどは卒業証書をいただきました。めでたく高等学校第72回卒業生になられたわけであります。3年ないし6年という年月は長い人生の中ではわずかな時間かもしれませんが、私は、皆さんが、この学園生活の中で、多くのことを学ばれ、成長し、そして今後の人生への礎を築いてこられたことを確信しています。勉強はもとより、健康な体、大切な友、そして何より、人として大切な心を身につけることができたと思っています。

ところで、先程、今日の卒業生は196名と申しましたが、197名の卒業生といった方がよかったですかもしれません。というのは元気でいれば、今日の卒業式も皆さんと一緒に迎えることができるはずだった畠山祐汰君が、1年前の2月12日に短い生涯を終え、帰らぬ人となってしまったからであります。本当に悲しく、辛く、残念なことでありました。先日の命日には、同じクラスだった生徒や、共に汗を流したソフトテニス部の生徒や先生方と、私も一緒にお墓参りをさせていただき、

色紙が代表の田中茉莉子さんに贈られた。さらに、金光教教務総長 面川良典氏（教務理事 山下輝信氏代読）の挨拶、送辞（畑地洗希さん）、答辞（大原綾華さん）と続き、最後に「金光学園歌」を斉唱して第1部は閉会した。

第2部は、続いてほつま体育館で行われた。最初に学園生活の3年間ないし6年間を振り返る「あしあと」が山下真儀先生、平岡留美先生の司会のもと、高3学年団を中心に上演された。

写真とナレーションで入学式、キャンプ、修学旅行、ほつま祭、体育会などの楽しかった日々を思いを馳せた。次に卒業生保護者を代表して宮本康子氏（眞田洋子氏代読）よりお礼の言葉が述べられ、続いて宮口智子氏より記念品目録（生徒用パソコン40台）の贈呈が行われた。終わりに、卒業生代表の山本幸歩さん、学校代表の佐藤正俊副校長よりそれぞれ謝辞が述べられ、拍手に送られて卒業生は学園を巣立った。



自宅にもお伺いし仏前にもお参りさせていただくことができました。

私は年が明けて祐汰君のご両親に、次のようなお手紙を書かせていただいたておりました。「来た卒業式には御霊様になられてる祐汰君ですが、同級生と共に出席をし、共に卒業していただけたらと思っております。ご両親には改めて悲しい思いをされることになっては相済みませんが、よろしかったら出席していただけないでしょうか」とご案内をさせていただきました。その後、ご出席のご返事をいただき、本日はお父様がお出でくださっておられます。もちろん祐汰君も遺影と共に、その席に座っていてくださっていると思います。そしてきっと皆さんと同じように卒業を、喜んでくださっていると思っております。

昨年の4月5日には畠山君のことを偲び、ご両親にも来ていただき、彼が5年間の学園生活を送った証として、梅の木を植樹してもらいました。場所も生徒の毎日の登下校を見守り、ソフトテニスの同級生や後輩たちの日々の練習も見たり応援したり出来るのではということ、高校棟昇降口横の庭園に植樹させて

いただきました。畠山君は高3での私が担当した宗教の授業を受けてもらうことは出来ませんでした。梅の木は宗教教室のすぐ横の庭園にありますので、この1年間いつも一緒に宗教の授業を受けてくれていると感じながら授業を進めておりました。今年には暖冬で梅の開花が早く、今は花もわずかに残すだけになっていますが、2週間前の命日の頃には、彼がもどってきたように満開でありました。来年から毎年2月にはきれいな花を咲かせてくれ、御霊様として、同級生の皆さんや金光学園やご家族の方々を見守り続けられると思っております。祐汰君のお父様には、今日はお忙しい中、出席をいただき誠にありがとうございます。心から御礼申し上げます。

さて、冒頭に新型コロナウイルスの事を申し上げましたが、一昨日、安倍総理大臣はこの感染拡大を防ぐために、全国の小学校・中学校・高等学校を明後日の3月2日より春休みまでの臨時休業にするという要請を出しました。学校教育の場としてはこれまで経験も予想もしたことがない方針が打ち出されたのであります。多くの心配される問題が考えられ、

私どもとしても大変驚いているところがあります。

テレビや新聞で報道されているように、心配なことばかりが思われますが、金光教の教祖は「難はみかけ」と教えてくださっています。困難な中から光を見出し、その困難なことを常にプラスに転じていくことの大切さをみ教え下さっています。たとえば病氣や怪我は難儀なことではありますが、その体験を通して健康の有り難さがわかり、体を大切にすることが出来るようになるなど、受け止め方や考え次第で「難をみかけ」にすることは多いと思います。皆さんもこれまでの学園生活の中でも、決して順風満帆に來たわけではないと思います。振り返ってみると、その困難なことや大変なことを乗り越えたからこそ、今の自分があると思われることがいくつもあるのではないのでしょうか。

今回の新型コロナウイルスの感染拡大は世界的危機と言っても過言ではないと思います。明後日からの学校の臨時休業の要請も大変厳しいものであります。昨日は中1から高2までの在校生に、長期の休みになる可能性があるこの状況だからこそ、あれも出来ない、これも出来ない

くなつたではなく、前向きにとらえ、日ごろ出来ないことに取り組んで欲しいと思したところでもあります。

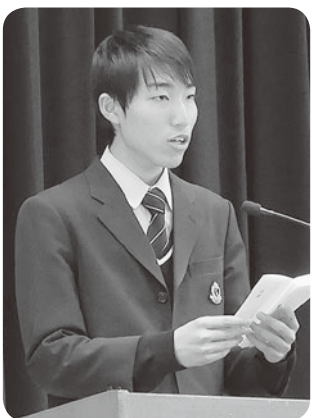
どうぞ卒業生の皆さんにとっても、これからの人生には様々な試練や困難なことが待ち受けていると思えますが、「難をみかけ」にして元気で頑張っていたいただきたいと思えます。

私は、昨日卒業生の皆さんが卒業にあたって詠んだ一人ひとりの短歌や、ほつま新聞に掲載された文章を、ゆっくり読ませていただきましたが、両親や友人や先生やそして母校金光学園に対しての思いが一杯詰まっているものばかりでした。どうぞこれからもその思いや願いを大切に、そして「人をたいせつに、自分をたいせつに、物をたいせつに」という学園の合言葉の精神や「母校の心」をどこまでも大切に、大きく羽ばたいていくてください。

最後にどうぞ皆さんの賜った尊い命を大切に、その命を輝かせて進まれることを心から祈念して式辞といたします。もう一度「人をたいせつに、自分をたいせつに、物をたいせつに」終わります。

## 送 辞

在校生代表 畑地 洸希



今年度の卒業式は、新型コロナウイルスの影響によって、このように縮小されました。しかし、卒業生の皆様を送りたいという気持ちは在校生一同が強く抱いているところです。その思いを代表して送辞を述べさせていただきます。

やわらかな日差しの中に、ほのかな春の香りが漂う季節となりました。このような良き日に旅立ちの日を迎えられた卒業生の皆さま、ご卒業おめでとうございます。在校生一同心よりお祝い申し上げます。

先輩方と過ごした日々は、私たちが在校

生にとってかけがえのない思い出です。振り返ってみますと、先輩方は、探究授業では様々な課題研究に熱心に取り組みました。特に笠岡の白石踊を取り上げた研究は「ビジネスプラン・グランプリ最終審査会」で審査委員特別賞を、さらに「ボランテア・スピリット・アワード」で文部科学大臣賞を受賞されました。また、多くの先輩方が自習室や図書などで遅くまで勉強に励み、入試の直前には互いに面接やプレゼンテーションの練習をしてアドバイスをされていました。私たちはひたむきに努力する姿勢と仲間と共に支え合う強い絆の大切さに気づかされました。

先輩方は行事にも本気で取り組まれました。ほつま祭での工夫を凝らした展示や、独創的な演技は見る人を惹きつける素晴らしいものでした。3年生のとき、有志の方が開いた模擬店は、どれもおいしいメニューと素晴らしいアイデアばかりで、金光学園に受け継がれている行事に対する熱い心を余すことなく示してくださいました。

また、部活動でも輝かしい結果を残されました。運動部では少林寺拳法部・陸

上競技部・バレーボール部がそれぞれインターハイへ、卓球部・柔道部が中国大会へ出場されました。フィギュアスケートで世界大会、相撲競技・アイスホッケー・アーティスティックスイミングで国民体育大会、合気道・ラグビーの中国地区合同チーム選抜選手として全国大会に出場した先輩もいらっしゃいました。

文化部では、音楽部コーラスが、第10回声楽アンサンブルコンテスト全国大会へ出場を果たし、音楽部吹奏楽団が全国高等学校総合文化祭吹奏楽部門に岡山県代表として参加しました。

私たちは先輩方の活躍された姿を胸に刻み込み、先輩方を目標にこれからも頑張っていこうと思います。

さて、社会に目を向けてみると、日本で初めて開催されたラグビーワールドカップでの日本代表選手の活躍に勇気づけられた人は多かったのではないのでしょうか。日本代表の快進撃を海外の各メディアはこぞって報じましたが、試合の内容だけではなく日本のホスピタリティ・おもてなしや各国チームと市民との交流などの様々な側面も伝えられました。開催都市やキャンプ地の日本人サポーター



が、対戦国の国歌を事前に練習し、国歌斉唱の際に対戦国のサポーターと一緒に歌う姿に称賛のコメントが寄せられました。これに対して、海外のチームが日本流のおじぎをして感謝の気持ち伝え、さらに台風の影響で試合が中止になったときには、被災地でボランテア活動を行う選手も現れ、その姿が世界に発信されました。

金光学園では、留学生や姉妹校生徒と

くすことで築かれる信頼関係から始まるのだと思います。

また、国内においてもボランテアなど、人のつながりの大切さを実感する機会が多くありました。昨年度、金光学園では有志で西日本豪雨の被災地に行き、避難所での支援活動や支援募金などボランテア活動を行いました。私自身もテニス部の仲間と、避難所や小学校での清掃活動や子供達に文房具や本を届ける活動に携わりました。避難所を掃除している際、被災された方から「ありがとう。ご苦労様。本当に助かるよ」と言われた時、他を思いやる余裕もないほど大変な思いをされているにも関わらず、笑顔で声をかけてくださったことに、こちらの方がありがたい気持ちでいっぱいになりました。また、小学生の子供たちが「金光学園から来てくれたよ」と大きな声をあげて喜んでくれたことに、誇らしい気持ちになりました。

「令和」新時代を切り抜けていくキーワードは、国内外での人と人との連携、絆だと思います。世界中の問題に目を向けつつ、人と人が協働、協調し合うことが求められています。私たちがその中

心となり、「令和」という元号に込められた、「美しく心寄せ合う中で生まれ育つ」というメッセージにふさわしい社会にしていくことが、私たちに課された重要な責任であると思います。

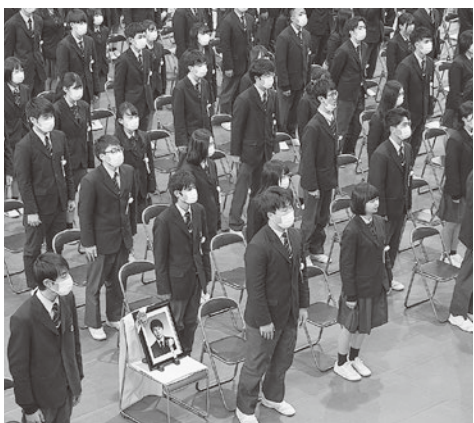
先輩方は、今日を境に新しい世界に向かって大きな一歩を踏み出されます。時には困難なことにおつかることもあるでしょう。そのような時にこそ、学園の合言葉「人をたいせつに」を思い起こし学園に物をたいせつに」を思い起こし学園で生活をともにした仲間達との思い出を励みに、自分らしく夢に向かって歩み続けてください。私達は先輩方が残してくださった伝統を引き継ぎ、そしてそれを後輩達に受け渡していきたいと思えます。

最後になりましたが、先輩方の今後の更なるご活躍とご多幸を、在校生一同祈念して、送辞とさせていただきます。

## 答 辞

卒業生代表 大原 綾華

春の訪れを感じるこの良き日、私達3年生は無事、卒業式を迎えることができました。本日は私達卒業生の為に、この



の交流、各種プログラムで様々な国の方や、様々な文化に接する機会が年々増えています。先輩方も、トビタテ！留学JAPANやジャパン・ソサエティー・ジュニア・フェロー・リーダーシッププログラムなどに参加するなど、先頭に立って金光学園のグローバル化に貢献されました。先輩方の活動やラグビーワールドカップに象徴されるように、真のグローバル化とは、国籍や民族・文化を超え、人と人がお互いに理解しようと心を尽



ような厳粛で盛大な卒業式を挙行していただき、まことに有難うございます。卒業生一同心から御礼申し上げます。

昨年から令和という新しい時代が始まりました。令和という言葉には「厳しい寒さの後に春の訪れを告げ、見事に咲き誇る梅の花のように、一人ひとりの日本人が、明日への希望とともに、それぞれの花を大きく咲かせることができる。そうした日本でありたい」という願いが込められています。この3年間を振り返ってみると、この言葉のように私たちの高校生活も豊かで充実した毎日でした。

ご存じの通り、昨年、日本で初めてのラグビーワールドカップが開催され、日本代表が初のベスト8に輝きました。日

本チームのメンバーは、国籍が異なりながらもワンチームをテーマにし、日本のため、チームのために一丸となった姿勢に、胸が熱くなったことを覚えています。私たちの最後の体育会でも、似たような感動がありました。練習が十分ではない中で30人31脚、3年生同士が決勝で熱い火花を散らした綱引きなど、競技に参加している選手だけでなく、応援を含めた全員が一丸となり助け合いました。このように、行事を通して学年の絆、団結力、そして最高の思い出を手に入れることができました。

私はこの金光学園で、特に部活動を通して仲間の大切さに気付くことができました。時には意見が合わなくなったり、辞めたくなくなったりした時もありましたが、お互いの本音をぶつけ合い、私のダメなところはダメとはっきり叱ってくれる、そんな友達がいいたからこそ、弱い自分から一歩ずつ成長することができました。私は、友達や周りの支えがあつてこそ生きていけるという当たり前のようで、実はとても有り難いことに気付いたので。そのおかげで私は、チームワークを意識しながら今日という日までがむしやらに

さった先生方、本当にありがとうございました。先生方は、失敗やうまくいかなかったことがあつた時でも、諦めず最後までやり抜くことの大切さを教えて下さいました。金光学園は私たちの原点のような場所です。迷つたり、立ち止まつたりした時はまたご指導よろしくお願いします。そして毎日と共に過ごしてきた3年生の皆様は、本当に家族のようでかけがえない宝物です。これからは夢を実現するために別々の道へと進むことになりませんが、つらい時や苦しい時にはきっとこの仲間の顔が思い浮かぶことでしょう。このような、お互いに尊敬しあえる仲間たちに出会えたことに感謝したいと思えます。

そして常に私たちの成長を見守り応援してくれた家族。嫌なことがあつた時には何も言わずただ傍で話を聞いてくれ、八つ当たりをしても次の日には何もなかったように接してくれました。金光学園という素晴らしい環境に6年間通わせてくださり、ありがとうございます。

諸事情で、この場に参加できていない在校生の皆さんにも伝えたいことがあります。自分の強みに気付き、自分の進む

べき道を探してください。私達には必ず一人ひとりに強みがあります。それに気づき、伸ばしてください。昨年の秋にノーベル化学賞を受賞された吉野彰さんも、「大切なのは、先を読み取り、自信を持つこと。今は将来の活躍のための絶好のチャンス。勉強と経験を積んでほしい」と、我々若者にエールを送ってくださいています。そして、その陰には、自分を支えてくれる存在があることを忘れないでください。自分が受けた恩を、のちの世代に繋いでいってください。

本日をもちまして私たちは長年通った金光学園を卒業します。高校棟玄関の横の梅の花も、私たちの門出を温かく見守り、応援してくれています。私たちはこれからそれぞれの夢や目標に向かって歩んでいきます。そこにはたくさんさんの試練や困難が待ち受けていると思いますが、この金光学園という学び舎で培ってきたことを心の糧にし、何事にも諦めない精神で輝く未来を創っていきけるよう行動していきたいと思えます。

最後になりましたが、これまで支えてくださったすべての皆様に深く感謝の意を表すとともに、伝統ある金光学園の更

突き進むことができました。

私は、昨年の3月にアメリカで行われたジュニアフェローズ・リーダーシップ・プログラムに参加する機会をいただきました。そこでは、世界を舞台に活躍している日本人の姿に刺激をもらいました。リーダーの方々とは触れ合うことで、「大きな目標を達成しようとするためには、周囲の人達との信頼関係なしにはできない、そして、小さなことから取り組んでいく必要がある」ということを学びました。私は、将来、世界の教育問題の解決のために取り組んでいきたいと考えています。そのために、まずは様々な現場に積極的に足を運んで求められているニーズを把握し、私なりに考えた新しい提案を実践することから始めていこうと考えています。失敗なくして成功はありませぬ。そのために、自分にしかできないことや、強みを増やしていきたいと思えます。さて、これまでの日々を振り返ると、やはり自分が成長できたのは周囲の人たちの存在があつたからです。なかでも、学園生活の中で出会った先生方に感謝しています。私たちの可能性を信じ、時には優しく、時には厳しいアドバイスを下

なる発展を願い、答辞とさせていただきます。

答辞 送辞はそれぞれの起草委員  
会で作られたものである。

◇ 答辞起草委員 ◇

高3 山本 幸歩 荒木茉理亜  
大原 綾華 山下 紗紀  
坂崎 丞 鈴木重一郎  
小寺 彩巴 細井里桂子  
中川 修一 河村 南

◇ 送辞起草委員 ◇

高2 妹尾 知美 山本 彩未  
山本 陸央 杉本 彩代  
森上 陽 杉尾 綾音  
内田 夏紗 畑地 洸希  
原田 大義

高1 高戸 快 西森 翔眞  
栗原万由子 三原百萌花  
柵屋 希 原田 珠希

# 贈る言葉

## 世のお役に立つ人となれ

定金 肇

「人はなぜ生きるのか」「何のために生きるのか」これは、私が中高生時代から抱えている人生の課題とも言えるものです。今は、その一つの答えとして、「社会に対して、何かしらのお役に立てる人になるために生きたい」と考えています。自分の人生が終わろうとしているとき、自分の一生を振り返ってみて、「良い人生だった」と言えるような人生を送りたい。「良い人生」とはどんなものか。お金儲けに一生懸命になる生き方もあるでしょうが、私は世のお役に立ってこそ「良い人生だった」と言えるのだと考えています。何の見返りも期待せず、ただ純粋な気持ちで「人のお役に立ちたい」と思います。それが平凡な父親であったとしても、我が子を立派な社会人に育てることで社会のお役に立ったことになると思っています。そういう平凡な人生でも、大きな意義はあると思うのです。

卒業生の皆さん、皆さんはこれからどんな人生を送っていこうとしていますか。この金光学園を巣立って、これから皆さんはそれぞれの道に進んでいくわけですが、金光学園で培われた良き精神を胸に、実社会に出て力を存分に発揮してもらいたいと思います。「世のお役に立つ人材を育成する」これが金光学園の精神です。どんな小さなことでも結構ですから、人のお役に立つ、社会のお役に立つ、そんな大人になってもいいと思います。そのためにも、自分を常に磨き続けてほしいと思います。今までは「夢に向かって」頑張ってきたと思いますが、これからは「夢の向こう」の自分を思い描いて突き進んでください。君たちが学んだことを、これからは周りの人たちを幸せにするために活かしてもらいたいと思います。

## 自分を信じて突き進んでください

平岡 留美

3年または6年の学園生活で溜めた力を発揮する時がやってきました。それぞれが自分の進路に沿って広い世界で生きていく際には、様々な出来事が起こることでしょう。嬉しいことや楽しいことはぜひ家族や仲間と分かち合って倍増させてください。反対に不安で悲しい時があっても、自分を信じて乗り越えることがきっと皆さんにはできるはずです。

「自分を信じる」とは今までの経験を信じることです。今までの経験を信じるということは、皆さんが今までに出会っ

た人を信じるということです。皆さんは今まで出会ってきた人達の欠片でできています。考え方や振る舞いにはきっと誰かの影響があるはずです。ですから皆さんは常に誰かに支えられ、そしてまた誰かを支えてながら生きていけるといえます。これから先、多くの人と出会って関わってください。自分とは正反対な考えを持つ人とも付き合ってみてください。その積み重ねが「自信」につながります。しかし人が一生涯に出会える人数、積み重ねることができる経験には限度があるので、たくさん本を読んでください。読書は移動せずとも世界を旅することができます。そうして自分の中にたくさん「世界」を溜め込んでください。

混沌としているからこそ可能性が無限にある世界に向かって、飛び出していく若い力に溢れた皆さん、これからもずっと応援し続けています。最後に最大級のメールを込めて、この言葉を贈ります。ご卒業、おめでとうございます！

## 豊かさや幸せはすでに自分の中にある

久保田 光盛

突然ですが、今から言う4文字を意味

の通る単語に並べ替えてください。「いくがだ」「しめこき」「さくくい」。文字に書くと、比較的分かりやすいかもしれませんが、文字を見ずに頭だけで想像してくださいと言おうと、少し悩んでしまう人が多いのではないのでしょうか。正解は……。「だいがく(大学)」「めきしこ(メキシコ)」「こくさい(国際)」です。では次の問題に移ります。ちなみに次に並べ替える単語は食べ物です。準備はいいですか。「にぎおり」「ぶらんで」「れじんお」。いかがでしょう。先ほどよりもかなり早く、「おにぎり」「てんぷら」「おれんじ(オレンジ)」が頭に浮かびましたか。

前半の3問はすべての日本語の中から選ぶ必要がありましたが、後半の3問は「食べ物」というヒントを言っただけで、脳がものすごいスピードで検索を開始し、迅速に答えを導き出したのです。このワークから、人間は意識するだけで、意識したもののだけを見つけようとする能力に極めて長けていることが分かります。

卒業の饞のメッセージとして、なぜこのワークを紹介したのか。それは、人間は意識したものしか見ようとせず、同時





に、無意識に見過ごしていることがたくさんあると伝えたかったからです。例えば、「私は運が良い」と思えば、運が良いことばかり見えるようになりますし、「私は運が悪い」と思えば、運が悪いことばかり目が付いてしまうのです。

私は、意識したものをみるだけでなく、無意識を「見える化」することが、豊かな人生を歩む秘訣だと思っています。病気で入院を余儀なくされたことで、何となく生きていた日常生活のありがたさに感動します。腕を骨折したことで、当たり前の手が使えていることへの感謝に気がきます。無意識を「見える化」することは、日常生活の気づきを増やす営みであり、気づきの多い人生こそ、豊かな人生だと私は感じています。幸せや豊かさは、すでに自分の中にある。そう思えると、日々の人生がもっと感謝と感動に溢れます。自分の人生が豊かさにあふれている時こそ周囲の幸せに寄与でき、安心して多くのチャレンジを経験できることでしょう。人生は魔法のランプ。何にもなれますし、いつでも人生は自分でデザインできます。みなさんの飛躍を、金光の地から願っています。

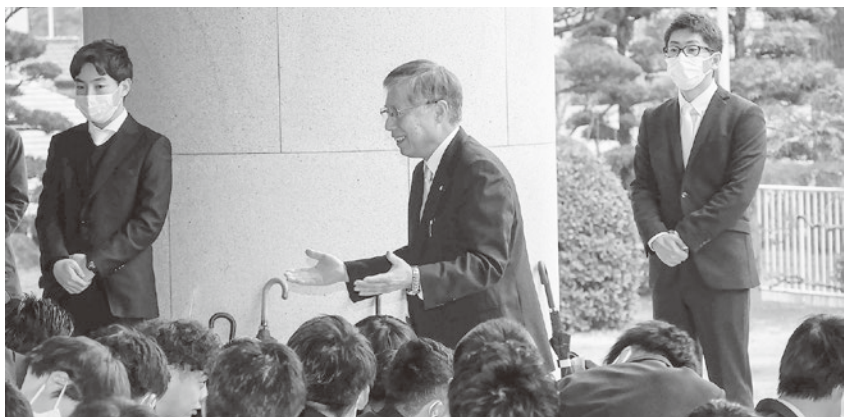
園ラグビー部の顧問として多くの選手たちと関わってきましたが、私の指導の中核はマンバメンタリテイでした。着任当初、ラグビー未経験だった私は、活動時間が短い環境で練習にどう取り組むかを選手たちに問い続けました。口うるさく細かいことを指摘され、窮屈に感じた選手も多くいたでしょう。しかし選手たちはそれにも耐え、向上心を持って練習に励み、素晴らしいラグーマンに成長してくれました。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんはこれから長く終わりのない冒険に出発します。その冒険にはきっと困難も多く待ち受けているでしょう。そんな中でも「もっと上達したい、もっと知りたい」という無限の好奇心とともに進んでください。応援しています。

### もう駄目かではなく、また駄目か

平賀 康

卒業するみなさんへの送る言葉についてのよいなことを書くか悩んでいる時に、プロ野球の名監督として有名な野村克也さんが亡くなったというニュースが入ってきました。野村監督は私が最も



### マンバメンタリテイ

角南 佑典

「コービー・ブライアントさん事故死」1月27日朝5時半頃、いつもよりなぜか早く目が覚めた私は、スマートフォンで通知を見て愕然としました。自分勝手なプレースタイルを批判されながらも、何度もチームを優勝に導いた彼は、私が最も尊敬するスポーツ選手の一人でした。さて、日本ではコービーという呼び方が一般的ですが、アメリカでは「マンバ」という愛称で呼ばれています。彼のバスケットボールに取り組む姿勢は「マンバメンタリテイ」と呼ばれ、多くの人々に影響を与えました。毎朝4時には起き、1日に4セッションのトレーニングをするほどストイックだった彼は、このメンタリテイを次のように説明しています。「マンバメンタリテイとは答えを見つけないための終わりなき冒険。もっと上達したい、もっと知りたいという無限の好奇心。人から何と言われるか、誰かに失望されるのではないか、そんなことは一切気にせず、その瞬間だけに神経を注ぐ。それが真のマンバメンタリテイだ」私はこれまで6年間、伝統ある金光学

影響を受けた人物の1人です。野球の技術や戦術に関することも多く学びましたが、人生についての考え方のほうがより多く学ばせてもらったと思います。今回このようなタイミングでの訃報となつてしまいましたが、これも何かの縁と思ひ、野村監督の言葉をお借りしてみなさんへの送る言葉とさせていただきます。

野村監督は無名の公立高校からテスト生でプロ入りし、現役時代には、才能がないから辞めたほうがいいと、何度もクビにされそうになったそうです。そういう苦しい状況だったからこそ、それらを打破するため必死に考えぬき、努力を重ねる習慣がついたそうです。常に常識を疑い、あらゆるところに工夫に工夫を重ね、戦後初の3冠王にまでなりました。

私は、困難な状況に直面した時、野村監督の考え方を、いつも参考にさせてもらいました。野村監督は伸び悩んだり、才能の限界にぶつかったりしたとき、「もう駄目だ」と諦めるか、「まだ駄目か、どうすればこれを突破できるか」と考え努力を続けられるか。一流と二流は、まさにそこでわかれる気がします、と言われています。

### 笑顔忘れずに

山下 真儀

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。共に過ごした6年間のすべてが宝物です。これからそれぞれの道に進み、社会へ巣立つ皆さんへ最後の授業をしたいと思います。

授業のテーマは「笑顔忘れずに」。笑顔は人を幸せにします。自分が悲しい時や、悩んでいる時でも、笑顔の輪の中にいると自然に力が湧いてきます。その笑顔の輪が友達や家族、恋人のような

特別な存在だと、もつと嬉しく、元氣と勇氣が湧いて自然と笑顔になることができます。だから、皆の周りに悲しんでいる人や、悩んでいる人がいる時には、あなた達の笑顔をその人にあげましょう。そして、一緒に心からの笑顔になれるように支えてあげましょう。

また、笑顔は人から人に「うつる」力を持っています。

人のあくびを見て、眠くもないのにあくびをしてみましたり、人が梅干しを食べて酸っぱい顔を見ると、自分も酸っぱい顔になってしまったりする経験があると思います。

笑顔にもその力があります。つまり、皆が笑顔であれば、周りの人にも笑顔がうつり、すべての人が幸せな状態になれるという方程式が成立します。

また一方で、幸せな気持ちになると自然に笑顔になることはもちろんですが、無理に笑顔を作ることでは心が穏やかになるという逆も証明されています。

そして、言うまでもなく「笑顔は最高の武器」となります。

では、皆が笑顔でいるためにはどうすればいいのでしょうか。

行きの飛行機に乗っているとあります。「飛行中、機体が予定されたルート上を飛んでいる」のは、飛行時間全体のどのくらいの割合だと思えますか？

90パーセント？ 80パーセント？ それとも70パーセント？ 正解は「ゼロパーセント」だそうです。

飛行機の窓側の席に座って翼の淵のあたりを見ていると、「補助翼」がしきりに動いているのが分かります。補助翼の役割は、飛行ルートを絶えず修正することにあるようです。自動操縦装置は、毎秒何回も予定位置と現在位置とのずれを感知し、舵の役目を果たす翼に修正指令を出しています。

同じことは、私たちの人生にも当てはまります。理想はもちろん飛行機と違って、予測や計画通りに進むスムーズな人生です。そのために、せめて最適な前提条件をそろえておこうと全てにおいて完璧な条件をそろえたがります。ところが物事が思い通りに進むことは少なく、人生は常に乱気流の中にあって予想外の悪天候と戦わざるを得ません。

皆さんはもうお判りのことだと思います。大切なのはスタートではなく、離陸後の

幸せな笑顔になるためには、人から愛されるのが一番だと思います。そのためにもまず、自分を愛してください。そして、頑張っている自分をしっかり褒めてください。自分を愛して幸せになったら、そのあなたを見て、必ず人が寄ってきます。するとその人も幸せになり、自分ももっと幸せになれるはずです。

では、最後に「素敵な笑顔で幸せに過ごす」という宿題を出しておきます。提出期限は設けません。分らないことや、困ったことがあればいつでも訪ねてきてください。

「笑顔を忘れずに」ご卒業おめでとうございます。

### 常に軌道修正を心がけよう

服部 和人

現在、私はロルフ・ドベリ（著）安原実津（訳）の『Think Clearly』という本を読んでいます。スイスのベストセラー作家が書き上げた未来が変わる「52の考え方」です。その中から一節を引用し、紹介したいと思います。

皆さん、想像してみてください。あなたは今、フランクフルト発ニューヨーク

軌道修正ですね。これから幾多の喜びや困難を経験されると思いますが、自分のりの修正を常に心がけより良い人生への舵を切ってください。心より応援しています。

卒業生の皆さん、本日はご卒業おめでとうございます。

### 素敵な人生を

小橋 聖里奈

たくさんの出会いがありました。あなたの為に本気で喜び、本気で泣き、本気で怒ってくれる人は、かけがいのない存在。同じ教室で多くの時間を過ごした友達は、生涯の宝物となるでしょう。これからも沢山の人の出会い、沢山の人の言葉に耳を傾け、幸せな未来を創り出して行って下さい。大好きなみなさんへ、人生の門出に2つの言葉を送ります。

「我々の最大の弱点は諦めることにある。成功する為に最も確実な方法は、常に、もう1回だけ試してみるのだ。」

トーマス・エジソン」これから広い世界に出ていけば、様々な困難が待ち受けていることでしょう。しかし何度壁にぶち当たろうとも、失敗しようとも、それ



は成功に近づくためのプロセスにすぎず、価値ある財産になるのです。どんな経験も決して無駄にはなりません。諦めず、チャレンジし続ける人でいて下さい。

「何かをしたい者は手段を見つけ、何もしたくない者は言い訳を見つめる」

何かがうまくいかない時、周りの人や環境のせいにしては改善も進歩もありません。状況が変わらないなら自分の考え方を改めてみましょう。考え方一つで物の見方が変わり、見える世界が違ってきますよ。けれど、どうにもならないことはよくよしないこと。時には遠回りしても構わない。成長し続ける自分に自信と誇りを持って、そしていつでも前向きにね。

身近な小さな喜びを見逃さず、いつも笑顔でいて下さい。笑っていれば幸せがきっとどんどん舞い込んできますよ。あなたたちの素敵な人生を、いつまでも応援しています。卒業おめでとう。

### 「いつせ」の気持ち

小郷 彰人

皆さん卒業おめでとうございます。はなむけの言葉として私が高校生の時に、



担任の先生がしてくださったお話を紹介します。

「どうせ」という言葉を使って例文を作ってください。その例文はポジティブなイメージですか？ それともネガティブなイメージですか？ 多くの人は「どうせ俺なんて……」のようなネガティブな例文を考えたのではないのでしょうか。でも「どうせ後でやるなら今やっちゃしまおう」とか「どうせなら楽しもう」といったポジティブな例文を作ることもできます。少し考え方を変えるだけでイメージは180度変わってきます。

マイナスイメージの文しか思いつかなかった当時の私にとって、このお話は目から鱗が落ちたような思いがしました。皆さんも、これからの人生で弱気になつたり、不安になつたりすることが少なからずあると思います。そんな時こそ視点を変えて「どうせ」の気持ちで乗り越えていってください。応援しています。

### 母校の心を大切に

新谷 忠彦

皆さん、ご卒業おめでとうございます。入学以来多くのことを学び、成長され

ましたね。これからはそれぞれの置かれた場所で輝き、活躍し、次世代を担う人となって下さい。  
支えてくださったすべての方に、感謝の気持ちを忘れず、元気で大いにはばたいてください。心よりおめでとう。

### 自分色に輝こう！

戸田 洋平

ご卒業おめでとうございます。天文ゼミの人達とは、2年半の付き合いになりますが、多くの人は1年間を共に過ごしました。諸行事を通して、皆さんの人柄に触れ、楽しく充実した1年間を過ごすことができました。

この春から皆さんは、それぞれの道に進みますが、様々な選択があります。ぜひ後悔のない選択をしてほしいと思います。若い皆さんには無限の可能性があるので、時には選択に迷うこともあると思います。そのようなときは、まずは自分の直感を信じてください。答えは一人ひとりの中に必ずあります。人に会ったり、本を読んでみたり、動いてみたりしてください。そうすることで視野が広がり、新たな気付きが生まれ、それはきっと自

分を決断へと導いてくれます。

私は就職のときに、どの学校に就職しようかと迷っていました。色々なことを考えましたが、結局選んだのは自分のしたいことでした。学生時代、天文活動の盛んな金光学園にご縁を頂き、今でも、宇宙や天文の魅力について多くの人と共有でき、日常的に宇宙の真理を探究できることに幸せと喜びを感じています。

これから、皆さんの目の前に広がる世界は大きく、求めればやりたいことがいくらかでもできる時間と環境が用意されています。周囲の人への感謝を忘れずに、皆さん一人ひとりが、自身の心に正直に、自分色に輝ける人生を歩んでほしいと思っています。

### 見識を広げよう

井上 裕介

ご卒業おめでとうございます。皆さんと過ごした3年間、私自身も充実した時間を過ごすことができました。立派に成長した皆さんを送り出すことができ、とても幸せに感じます。

3年間地理を担当させていただき、テキストやプリントを通して、世界各地の

様子を紹介してきました。実は授業をしながら後悔していたことがあります。それは、地理の「本当の」魅力を伝えられていないのではないかと、ということでした。山の高さを教えることはできても、そこから眺めを伝えることはできなかつたり、この地域は寒いということを教えることはできても、そこで人々がどのように暮らしているか語ることができなかつたり。その国、その土地に立って初めて得られる感動や気づきがたくさんあると思います。ぜひ、若いうちにいろいろなところに行きましょう。そこで得られた見識は、あなたの人生を豊かにしてくれるでしょう。世界は広いです。「本当の」地理を楽しんで充実した人生を歩んでいってください。



# 卒業短歌

## ■ 1組 ■

日ざし受け光輝くマイ楽器  
反射し僕の日常照らす  
服部 直樹

二度寝して毎朝ねぼう六時半  
父の足音今日も始まる  
内村 彩乃

乗り遅れ怒りながらも送る母  
素直に言えぬ感謝の気持ち  
岡本 美咲

けんかしたまだ幼い日思い出し  
成長したねと笑える幸せ  
平松 果奈

## ■ 2組 ■

帰り道四人で楽しく話す日々  
当たり前でも僕には幸せ  
岡本 涼顕

念願の夢の舞台へあと一点  
ボール追う目を邪魔する涙  
長谷川主税

見えぬ羽成長してきた3年間  
社会へはばたけ未来の私  
川上 伶奈

耳にタコ聞き飽きるほど聞いてきた  
合言葉すら愛しく思う  
山下 紗紀

## ■ 3組 ■

風呂上がり現地で買ったトランプと  
おみやげ開き騒げ朝まで  
一谷 樹

甲子園届かなかったこの夢は  
未だ変わらぬ俺達の夢  
浦生 直哉

昼休み冷たい地べたみな座り  
ぬくもり感じた母の弁当  
富田 祥吾

開った仲間とついた傷跡は  
一生残る青春の証  
原田 将樹

## ■ 4組 ■

通学に二時間かけて電車乗り  
転た寝をして気づけば兵庫  
川口 大城

友人とともに過ごした長旅で  
友情深め残り一日  
高木 久司

白球を追いかけた日々もうこない  
最初で最後の高校野球  
守屋 優希

最後まで仲間と立ったあの舞台  
かけぬけた日々の涙に乾杯  
出口 綾菜

## ■ 5組 ■

明日こそはいつもそう言い夏終わる  
宿題までで後で後悔  
天野 峻輔

## ■ 6組 ■

「がんばって」心に響く君の声  
思背に挑む夢への旅路  
友原 諒人

当たり前前そう思っていた生活も  
気づけば手にもつ卒業証書  
中塚 空翼

よみがえるメタセコイヤの花言葉  
朝日あびつつ高く花咲く  
光畑 沙香

やめたいと何度も思った部活動  
今の血となり肉となる  
市川 真広

## ■ 7組 ■

自転車にまばらに残る傷跡に  
浮かび上がるは過去の思い出  
小田原 秀

引退し半年ぶりの体重計  
あの夏よりもプラス7キロ  
田邊 陽紀

## ■ 7組 ■

女子がいなそう嘆いてた高3の春  
終わってみれば最高のクラス  
藤本信太郎

食堂で友と交わした馬鹿話  
気付けば僅かな楽しい時間  
梅原 崇弘

六年の何も変わらぬ日常の  
尊さに気付く卒業の時  
岡本紘太郎

おめでどうめでたくないよさみしいよ  
学園生活私の宝  
泉 アリス

## ■ 8組 ■

行ってきますメタセコイヤに背を向けて  
繫いだ未来またいつの日か  
中塚 桃花

# 卒業を前に思うこと

## 生徒

### 卒業に際して思うこと

1組 吉田 匠一郎

何かが始まれば必ず終わるのが世の常と分かっていてもやはり寂しさを感じます。卒業するのは喜ばしいことではありますがこの感情はぬぐえないものです。

金光学園に入学してから6年が経ったわけですが、多くのことがあった濃い6年間であったように思います。嫌な事はもちろんあったのですが、それ以上にいい思い出が多くあります。それは友人のおかげではないかと思えます。中学・高校での6年間の学校生活で一度も孤立しなかったのは恵まれた環境であったと思えます。日々する他愛無い会話やふざけあいができたのはやはり友人がいてくれたが故です。この学年の非常にいい所は、誰かひとりを孤立させないことではないかと思えます。誰かの周りに必ず誰かが

いたように思います。それ故に結束力は非常に強かったのではないのでしょうか。卒業後も今いる友人との関係を続けていきたいものです。

卒業後、我々は自由になるわけですが、これと同時にこれまで負担してこなかった義務も生じるわけです。制服はいわば我々の責任を軽減してくれる鎧のようなものです。それがなくなるわけだからこれまで以上に責任をもって行動をしていかなければならないのです。卒業した後も学園の名を背負うわけです。自分達の行動一つで学園の評判が決まっていくわけだから身の引き締まる思いです。しかし、学園で学んだ人間としてのあるべき姿を心に留め置き、日々を過ごしていれば、恥じる行動をすることはまずないと思えます。

今後の人生を、6年間お世話になった先生や友人たちに感謝しつつ、学園生でいられたことを誇りに思い過ごしてい

たいと思います。

### 2190日の成長

2組 山下 紗紀

長いようであつという間に過ぎていった6年間。振り返ってみるととても感慨深いものがあります。入学当初は慣れない制服に身を包み、期待と緊張で胸がいっぱいでした。大切な友人や沢山の先生方に恵まれて今日まで成長することができました。思春期の内面的にも外面的にも大切な時間をこの金光学園で過ごせたことは今の私の財産でもあり、人生の指針を私に与えてくれたと思っています。

この生活の中で何が印象に残っているかと聞かれると言葉で簡単に言い尽くせないほどあります。もちろん圧倒的に楽しかった思い出が沢山あります。でもしんどい時もあったし、辛かった時もありました。それでも乗り越えてここまで来れたのは周囲の支えがあったからだと思います。

います。何気ない日常が楽しくて、私より私のことを理解してくれる友人がいて、たくさん相談にものってくれて本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

金光学園では様々な経験をすることができました。勉強面や行事もそうですが、海外交流プログラムが思い出に残っています。海外を経験したことがなかった私にとつても貴重な体験でした。自分の視野も広げることができ、この時くらいから挑戦することの大切さを意識したと思います。また、高校生になってからはラグビー部のマネージャーもしました。ルールも知らないし誘われただけで入部しましたが、今となっては全てが良い思い出です。同学年はもちろん、優しい先輩や頼りない私についてきてくれた後輩。私はこの部でしかできない楽しさを味わうことができました。

4月からはそれぞれの道に進むこととなります。周りの人への感謝の思いを忘れずに金光学園で学んだことを糧にこれからも成長し続けていきます。本当にありがとうございます。

### 今思っていること

3組 友國 真琳

金光学園で過ごしてきた日々があと少しで終わりを迎えます。友達と歩いた通路、学校の廊下、長い階段、何気なく歩いていた場所も今となつては少し名残惜しいです。毎日教室に行けば会えていた友人とも、わざわざ連絡を取らないと会えなくなりそうです。金光学園で過ごした6年間は本当にあつという間で、そして私にとつての一生の思い出です。金光学園にこなければ会えていなかった友人達も沢山います。

私は今、これからの生活に対して期待と不安でいっぱいです。大学生になればこれまで許されてこなかったことも出来るようになります。その中で何かしら自分で責任を取らなければならないことも沢山出てきます。私たちがこれから過ごすであろう濃い時間は、自分の夢に向かって着々と用意を進める時間でもあります。少し大人に近づく私達は、そのことを自覚して過ごさなければならぬと思えます。

またその他には、色んな人への感謝が出てきます。ここまで私を支えてくれた

両親、学校の先生、友人、いろんな人の支えがあつて今の私がいると思えます。中学時代には部活でいろんな葛藤もありましたし、それを乗り越えることが出来たのはチームメイトのおかげです。高校では部活は入りませんでした。その分勉強に専念することも出来たので後悔はありません。受験期には特に先生に頼りっぱなしでした。何度も何度も面接の練習にも付き合ってもらい、無事終わらせることが出来ました。

色んな人の支えがあり自分があるというのを忘れず、これからも自分の目標に向かって突き進んでいきたいと思えます。今まで本当にありがとうございました。

### 6年間の成長

4組 瀬尾 昶司

金光学園に入学して6年間、とても充実した学園生活を送れたと思っています。時にはつらくて泣きそうになったこともありましたが、中学と高校と学園に通いとても成長できたと感じています。

学園に入学当初の頃、臆病で弱気だったのが友達が多々できなくて、学校に行くのが嫌だった時期があり、他にもつら

くて苦しい時期が何度も僕にはありませんでした。その時、僕を前向きにさせてくれたのが、野球を通じて仲良くなったチームメイトであり今でも感謝しています。中学時代は堤先生に、高校時代にはスタッフを含む多くの人たちにお世話になりました。僕はたくさんのおかげで精神的に大きくなれたと思っています。その中でも僕は日笠先生なしでは成長できなかったと思います。日笠先生には色々未熟だった僕に、野球の技術だけでなく、人として何が大切なのかということも教えてもらいました。

卒業する今、僕が信条にしているのは「強気」という言葉です。この言葉は僕が試合の時、相手に立ち向かっていくために唱え続けていた言葉です。この言葉を胸に刻みこれからも頑張っていきたいと思います。今まで出会い関わってきた人達に感謝の気持ちを伝えたいです。金光学園で6年間過ごせてよかったと思います。ありがとうございました！

思うことは主体性である。1年生の時、新チームになった時監督に言われたことがある。「お前たちの学年は主体性が無い」という言葉である。

今までは監督が毎日のメニューを決めていた。しかし、監督からの提案もあり今後は選手と監督が話し合いながら決めるということになった。「練習は意図を考えてやらなければ何も意味が無い。目標を立ててもいつまでどう成長するのか、それを明確にしないと中途半端に終わってしまう」と監督に言われた。この言葉を聞いて3年生は夏の大会に臨む姿を逆算して練習メニューを考えるようになった。これにより練習の中で感じるが増えるようになり、選手間の会話が増えていった。自ら考え行動し間違えがあれば仲間同士で指摘し合う。これがまさに主体的ということである。

もちろん技術的な成長もたくさんあった。しかし野球だけに必要な事ではなく社会で役立つ部分での成長も出来たことが、とても充実した高校野球にしてくれたと感じる。これにはもちろん多くの方の支えがあったからだと思う。そばで応援してくれた家族、笑顔で応援してくださる

## 学園での軌跡

### 5組 福島 杏樹

私が金光学園の校門を潜ってから早6年。卒業を目の前に迎えた今、学園での多くの思い出が思い返されます。

私の学園での思い出の半分以上を締めるのが中・高6年間所属していた音楽部吹奏楽団での活動です。部員は50人程、一人ひとり個性があり考えも違う。そのため、特に最高学年で幹部となった昨年は部をまとめる大変さや、少な過ぎる練習時間のなかで効率良く練習できるように計画を立てて練習する事がいかに大切かを痛感しました。また、先輩として後輩の手下となる行動を心がけ、多くの人の考えに触れ、相手と自分の物差しを極限まで近づける。その上で自分の考えをもつて活動をしてきました。世間の考え方もブランク反対となって来ている今だからこそ、後輩を指導する側として少しでも間違えると批判の嵐。人によって感じ方も違うため上に立つ者の気持ちもわかつた様な気もしました。私は部の活動を通して、普通の部活では出来ない経験をすること出来た事、そして私達の活動を応援して下さいました沢山の方のおかげで最後

皆様、裏方に回ってサポートしてくれたチームメイト、熱い指導をして下さる顧問の先生方。言い出したら切りがないほど感謝の気持ちでいっぱい。

惜しくも甲子園出場という目標を達成することは出来なかったが、後輩たちには必ず甲子園に行つて欲しいと思つている。グラウンド、ベンチ、スタンドが一体となりいきいきとプレーする金光学園の野球に期待して頂きたい。

### 金光学園で得たもの

#### 7組 中濱 里菜

金光学園で、私は様々な場所に立たせてもらい、そこでたくさんのお話を学ばせてもらいました。このような環境を作つてくださった先生方そして支えてくださった家族や友達には感謝の気持ちでいっぱいです。

私は歌が上手になりたいという一心でコーラス部に入部しました。1つのステージを作るにあたって自分たちが満足したものでなく意味がなく、観てくれた人達が感動したなどの声を聞いたことで初めて1つのステージができるんだなということを知りました。そしてそのよ

に私達らしい最高のステージを作る事が出来た事に心から感謝しています。

学園での思い出の残り半分は勉強に関する事です。高校に入つてからは特に勉強にも力を尽くしてきました。中学までは勉強があまり好きではなかった私が見習いをする事ができ、最終的には勉強をする事が楽しく感じました。それは、丁寧に教えて下さる先生方、テスト前に教え合いをして互いの知識を定着させ、一緒に面白い語呂合わせを考えてくれた勉強友達のおかげです。ありがとうございました。

最後に6年間学園に通わせてくれた両親、私達を時に厳しく時に優しく指導して下さいました先生や先輩方、可愛い後輩、そして6年間または3年間共に学んで来た仲間、沢山のひととの出会いに感謝しています。この先どんな壁があろうと、学園で得た経験を活かし何事も諦めず乗り越えて行きたいと思っています。素敵な6年間をありがとうございました。

### 高校野球を通して成長したこと

#### 6組 河田 大輔

私が約3年間で最も大きく成長したと

うなステージにするためには心を込めて歌うということがどれだけ大切であるかをコーラス部を通して学ぶことができました。定期演奏会以外にも老人ホームの訪問といった奉仕活動にも積極的に参加しました。とある老人ホームでは孫が受験生でなかなか会えず悲しい思いをされていたおばあさんが私たちのたくましい姿と歌声のおかげで笑顔になってくれました。この経験は私にとって忘れられない思い出となりました。

金光学園を卒業してこれから私たちはそれぞれの道へと向かっていきます。またあの景色がもう一度見られるように日々の積み重ねの努力を大切にしていきたい、社会貢献できる人間になりたいです。



## 保護者

### 息子の成長

1組保護者 渡辺 佳子

私の息子はもともと勉強やスポーツが得意なわけでもなく、1人で部屋にこもってピアノを弾くのが好きで内向的な性格です。

高校に入ってからには部活もやめてしまい、普段から友達が大勢いるわけでもなさそうでした。そんな地味で何となく生活を送っていた彼の出会いと転機は高2に訪れました。探究活動授業の一環であるフィールドワークで、担当の三宅範行先生のご指導の下、笠岡諸島の白石島に80年前から伝わる国指定重要無形民俗文化財である白石踊（盆踊り）の伝統を守る活動に取り組むことになりました。白石島は過疎・少子高齢化が進み、島民の生活と共にある白石踊が廃れてしまわないようにと同世代への呼びかけ、新聞への投稿、高校生によるホームページの作成、観光ツアーの企画などのプロジェクトを進めていきました。

その活動を通して、やればできるという達成感を知り、行動力を養い、地域社

会やボランティア活動への関心を持ち、

大学で学びたいことのヒントを得て、支えてくれる多くの人々にも出会えました。

息子が白石島の方々に徐々に受け入れられていく姿や、活動をプレゼンするためコンテスト会場の緊張で張りつめた場を持ち前の親しみやすさで和ませる様子を見ていると、成長を実感し、周りの人が見守ってくださることをありがたく思っています。日頃から金光学園で先生や友達から親切に接していただき、不器用ながらも人の優しさがわかる子に成長できたからだと感謝しております。これまで学び培われてきたことは彼の大きな財産となっていくはずです。

時代が目まぐるしく変化し、人工知能が進む社会においては、同時に人の心も求められることでしょう。そんな時代だからこそ、人を大切にする金光学園の教育がこれから先もますます必要とされ、受け継がれていくことを切に願っております。

### すべてに感謝

2組保護者 遠藤 かおり

満開の桜並木に迎えられ、金光学園に

生のホストファミリーとなり受け入れを行いました。留学生の方から「お母さん」と呼ばれ、第2の家族ができたようだと嬉しかったことを思い出します。国際交流を通して感じたことは、互いの文化を認め合い、また私たちが「日本の文化・伝統・情緒」を大切に思うことが、重要であることを親子で振り返り学びになりました。この経験を活かし語学力だけでなく人格・感性も磨き、社会貢献できるように親として期待しています。

先生方には、子供たちに寄り添い、個性や自主性を尊重し導いてくださったご指導に感謝しております。子育てにおいて親としては反省点ばかりですが、懇談時など先生方には温かく励まして頂き、新しい進路へ進むことができました。いよいよ親の手を離れ飛び立つときがやってきました。娘を18年間そばで見守って、いなくなるのは寂しいですが、笑顔で背中をおしてやろうと思います。

最後に校長先生をはじめ教職員の方々に支えていただき、ありがとうございました。

### 卒業前に思っていること

3組保護者 豊田 恭子

長女・次女ともお世話になった金光学園ですが、次女も卒業する日が近づき、親の私が、切なく涙腺がゆるむ今日この頃です。金光学園は個人の個性を活かせる場が多く用意され、なかでもグローバル教育のプログラムが充実していました。

様々な国際交流活動に積極的に参加することができ、姉妹校であるラッドフォードカレッジでの研修及びホームステイやアメリカの大学生や春川女子高校の留学

入学した日がつい先日のように感じられます。「ちははも こどもとともに

うまれたり そだたねばならぬ こもちはははも」入学式で校長先生からご紹介いただいた金光鑑太郎先生の詠まれた歌は、それまで正解を求めるあまりに抱えていた子育てに対する私の大きな不安を払拭してくださりました。親としては初めてのことばかり。子どもたちと一緒に泣いたり笑ったり、失敗を重ねながら前に進めばよいのだと。

2つ年上の長女もお世話になりましたので、計8年間を子と共に金光学園で過ごさせていただき、保護者会活動に参加させていただいたことで、もしかしたら私自身が子ども達以上に青春時代に戻ったかのように学園生活を楽しませていただいたかもしれません。活き活きと伸び伸びと、何事にも全力で取り組ませていただいた学園生活。卒業を前に子ども達からは「金光学園で本当に良かった。学園に通わせてくれてありがとう」との言葉を聞き、胸がいっぱいになりました。私からも「ありがとう」と子ども達に伝えたいと思います。

今年は春の訪れとともに寂しさが込み

### ノーサイド

4組保護者 長野 理絵

我が家は長男を合わせるも9年間、金光学園にお世話になり、2人の息子は無事卒業することができました。長男が金光学園へ入学した後、同じようにと自分の意志で地元の中学ではなく学園を受験し合格。それから6年間、多くの仲間と先生方に支えられ過ごした学園生活はとても有意義で、部活中心ではありませんが多々の経験を繰り返し成長することができました。特に部活動においては日々の練習、試合だけでなくいろいろな出来事があり、多感な時期の子供たちを熱心に、そして、丁寧にご指導いただき本当にありがとうございました。

そんな我が子もこれからはもう手の届かない遠くへ行ってしまうと思います。全く新しい環境に置かれ不安や迷いもあると思いますが、我が子とともに歩んできた生活から一変、我が子のいない生活に戸惑う親の姿があることを覚えておいてほしいのです。

母親として楽しいことや辛いこと、過ぎてしまえばあつという間の月日が終わろうとしています。正に「ノーサイド」。

試合終了を告げる笛が聞こえてくる気がします。共に過ごしてきた子供たち、先生方、保護者の皆さま、お互いの健闘をたたえ合いましょう！そして周囲の人々への感謝の気持ちを忘れず、子供たちは学園生活で学んだあの精神を胸に、私たち保護者は子どもたちの門出を祝福し、次のステージでの活躍を楽しみにしています。

卒業おめでとうございます。

## 心づてに

5組保護者 野宗 陽子

少しずつ日脚が伸び始め、子どもたちが金光学園を旅立つ日がすぐそこまで近づいています。

息子は6年間野球部に所属しており、我が家では週末になると試合の応援に行くことが恒例行事となりました。訪れたことのない街に出かけ、気の合う保護者の方々との愛のない会話をし、打席に立つわが子の姿を祈るような気持ちで見守り、活躍した子を皆で称え合いました。息子の応援と言いながら、日々全力で野球と向き合う生活の中でのかけがえのない楽しい時間でした。

野へ進学し、自身を確立していく上で揺るぎない糧として生涯支えてくれる宝物となりました。

卒業を前に想うことは《天地日月の心になる事、肝要なり》にちがちがさらより》です。

それは先生方が6年間を通して見せて下さった、『親や周囲が《持っている力を焦らず信じ、応援し続ける事》によって、子どもは《自分の力を大切に愛し信じること》が出来、その両方の心が《ありがとう》を持って合わさる時にその力は弛まなく湧きいでる。』という事に結びつきました。

「僕は金光学園生で本当に良かった」の言葉と共に全てに感謝……。

最後に、学園生活に関わって下さった先生方をはじめ全ての皆様に心から感謝し、新しい門出に期待を膨らませ、我が母校となる学園がいつまでもここに栄えて在る事をお祈りし、稿を終えさせて頂きます。

## よも思ひ出に感謝

7組保護者 永原 伸江

突然の宣言。「ばく、金光学園行くか

## 卒業を前に想うこと

6組保護者 中川 由美

「天文ができる学校ってある？」小学生の修一の一言が金光学園とのご縁の始まりでした。

オーブンキャンパスに向かうメタセコイヤ並木から屋上の天文台を見つけるや否や「ここがいい！決めた！」瞬時に自分が在るべき所を見抜いた事は正に指導を頂いたと感謝しています。

天文への強い想いと憧れを持って臨んだ入学式で学園から頂いた《日めくり、にちがちがさら》は精神性情緒的、学術的成長の6年間を心を持って過ごす事の大切さを教示下さいました。年季が入った1枚を毎朝めくり1日の心持ちを知り「そうあろう」と思う事で学園生としてあるべき心を育む事が出来たと確信しています。また歴史ある天文部の温かく伸びやかな中で良き先輩、友人、後輩と出会い、共に伝統継承と新しい開拓を志した3年間の部長経験を経ての校内探究発表や校外の「集まれ天文生」SSH生徒研究発表会などの出場、課外イベント他多くの機会を体験出来たことは、これから更に極めるべく天文学の領域・分

ら！」と小6の晩夏。唐突な発言に、周囲の大人たちは、啞然としたのを鮮明に覚えています。息子の理由なき強い意志に、押し流されるがごとく、入学の日を迎えました。あれから早6年。お陰様で、息子は、心身共に成長をみせてくれましたが、喜怒哀楽、感情の起伏が激しい日々でした。

まず、皆より遅れ気味でやってきた反抗期は、不条理な言い分、取っ組み合いの喧嘩、いつかは抜け出す日がくることを信じ、戦いました。今では、穏やかな息子に戻り、すっかり平和な日々で、「あの日々は何だったのか？」と自問自答し、壁の凹みを眺めながら、振り返れば、よき思い出となっており、笑みがこぼれます。

それから、学園生活においては、バスケットボール中心の生活といっても過言ではない程、部活動に明け暮れる日々でした。紆余曲折を経て、尊敬できる先生、自分を理解してくれる仲間に出会えたことは、生涯の大きな宝です。そして、息子のお陰で、大人の私にも貴重なお友達ができ、一喜一憂しながら、一緒に応援できたことも懐かしく思えます。

6年間の金光学園での生活を終え、新

しい世界に踏み出そうとする今。常に自分の強い意志で進んだことを忘れず、自分なりの豊かな花を咲かせて欲しいと懇願します。寄り添い支えてくれる友・天国から見守ってくれている友の存在を大切にし、精進してもらいたい。小6だった息子が選択した道、幸せな道であったこと、そして、息子に携わって下さった数々の方に、心より感謝致します。金光学園の益々のご発展をお祈り申し上げます。



「コロナウイルス 大嫌い！」

「新型コロナウイルス問題の対応」

「コロナウイルス 大嫌い！」という言葉は、本校へ昨年9月から今年3月下旬までの半年間余りの予定でスリランカ(旧セイロン)から留学してきている女子留學生のネトウさんが、先日(2/28)言った言葉です。安倍首相の要請で、3月になって学園が臨時休業になると、もう出校できなくなるので、彼女が留學生として本校での学業を終えたことを証する修了証書授与式をその夕方、急遽行うことになりました。その時のスピーチの中で、ネトウさんが涙を流しながら言ったのが「コロナウイルス大嫌い」の言葉でした。コロナウイルスのために、自分ももう登校できなくなり、友達にも会えなくなってしまうのがとても残念で悲しいというのであります。翌日の29日は高等学校の卒業式の日でしたが、既に数日前の県教委からの通達を受けて、学園でも、在校生や来賓の出席はなしで、この度は卒業生と保護者と教職員だけで挙行することにしていました。ネトウさんには、高校3年生(卒業生)にも沢山の友達ができていたので、卒業式に出席できないことを大変残念がっていたのですが、それに加えて、新型コロナウイルスによる臨時休業の措置で、最後の3週間の登校ができなくなってしまうのです。そこで、急遽その日の夕方、学校へ残っていた彼女の友達と先生方とで、教員室での修学修了証書の授与を行ったのであります。彼女はこれまでもスピーチではいつも「日本大好き 金光学園大好き

伝えられています。本校としても例外ではなく、色々な決断や選択を迫られることになりました。3月だけでも、例えば卒業式や義務教育修了式の持ち方、学年末考査日程や評価、出校日の是非やその持ち方、在校生の補習や中高の新入生のスクーリング、運動部の大会への参加や部活動の練習、コーラスや吹奏楽団の演奏会の開催、小中高生を抱えた保護者である教職員の勤務、会議の持ち方などあげればきりがありません。既に3月の予定で中止、又は変更を決定した事は以下のようになります。(3/2現在)

- ① 3月2日は家庭学習日とし3日から17日まででは臨時休業日とする。ただし5日と12日は出校日とする。
- ② この臨時休業期間、生徒は原則自宅待機とし、部活動なども行わない。
- ③ この期間、教職員は通常通り勤務するが、生徒や保護者にかかわる行事は全て中止する。
- ④ 17日の義務教育修了式は行うが、在校生は出席せず、中学3年生の生徒と保護者の出席によって行い、ゆずり葉の会は行わない。
- ⑤ 18日には、3学期終業式を実施し、それ以降は部活動など含め通常に戻し実施する。(状況判断で変更もある)
- ⑥ 春休みに予定されている海外研修(イギリスとニュージーランド)は中止し、コンサート(音楽部コーラススプリングコンサート)や吹奏楽団創部100年記念コンサート)は延期する。

高体連や中体連関係の大会は、既に大部分が中止が発表されているなど、大変な状況であります。世間ではプロ野球のオープン戦や、サッカーリーグの試合や春場所の相撲も延期になったり、無観客開催になったりしていることが報道されています。岡山の後楽園や倉敷の美観地区では、中国や韓国の旅行者はすっ

金光学園の生徒や先生大好き」と言ってくれていました。帰国して大学へ進学する予定ですが、将来はスリランカと日本の懸け橋としての仕事がしたいと話しています。しかし、結局3月は学園への登校もできなくなったので、帰国の日程も3月8日と早まってしまい、今の彼女にとっては、さらに残念な思いになったのであります。その日のスピーチは急なことだったので、事前に準備したものではありませんでしたが、しっかりとした日本語で、友人や先生に対する感謝の言葉を、心を込めて一生懸命話しました。とても悲しそうに涙を流し、言葉を詰まらせながら、「コロナウイルス 大嫌い！」と語る彼女の姿に胸が締め付けられました。ネトウさんは素晴らしい留學生で、温かく新しい風をスリランカから金光学園に吹き込んでくれたことにも大変感謝しています。彼女の今後の幸せと活躍を皆さんと共に祈りたいと思います。

同じような「新型コロナウイルス ばかやろう！」という少し乱暴に聞こえる言葉が今朝(3/2)のTVのニュースで伝えられていました。今年度で閉校になる小学6年生のクラスの黒板に書いてあった言葉です。突然の臨時休業措置で、2月28日が最後の授業になってしまったこの小学校で、6年生の泣きながら最後のHRの様子が報道されていました。まだ彼らの卒業式までは1か月近くの期間ではあったのですが、小学校での生活が突如終わってしまうことになったのですから、ショックは大きかったと思います。この度の臨時休業の要請や通達は、あまりにも突然でしたし、未だかつて経験したことのない事で、全国の小学校・中学校・高等学校など、全ての学校に大きな衝撃や動揺が広がりました。またその年代の子供を持つ家庭にも大きな戸惑いや心配が広がっています。マスコミや評論家の論評では、多くの問題点や混乱や心配されることが毎日のように

かり姿を消してしまいました。これが長引けば長引くほど、日本経済はもとより世界経済に与える影響は、極めて大きく深刻になることは間違いありません。一刻も早い収束を願うばかりであります。この新型コロナウイルスの感染拡大は、短期間で収束せず、新年度になっても続く可能性も大いに心配されます。そうなるとう4月になっての入学式や入校時合宿をはじめ、中3の修学旅行や6月の高校の修学旅行などの学校行事はもちろんの事、授業や部活動にも影響が出るようになります。ひとつひとつしっかりと検討し、方針を定めていくことが必要です。先の見通しがわからない中で、先々のことをどこまでも心配するところがありません。

心配されることや元気の出ないことが続きますが、金光教の教祖様は「おかげは和賀心(和らぎ喜ぶわが心)にあり」と言われ、心配したり、悔やんだり、怒ったりする心には良きものは生まれてこないと言われています。また「難はみかげ」とも教えられ、困難なことの中に光を見出し、おかげを受けていくことの大切さを教えられています。今の新型コロナウイルスの感染拡大は世界的危機と言っても過言ではありませんし、この度の日本での様々な状況も大変であります。この「難儀」な状態を収束させることが私たちにとって、今最も大切なことであり、それをプラスに転じていくことが大切なことでもあります。

生徒にとっても、家庭においても、また私達学校現場においてもこの度の新型コロナウイルスの感染拡大による影響は計り知れないものがありますが、それで元気を失ってしまうのではなく、「和賀心(和らぎ喜ぶ)」を持って、「難をみかげ」にしていきたいものだと思います。

## メタセコイヤ

### 第23回 ボランティアスピリット アワードで全国1位に相当する 文部科学大臣賞を受賞

ボランティアスピリットアワードに  
参加して

高3 渡辺 陽

私は昨年12月21～23日に東京で開かれたボランティアスピリットアワードに参加し、全国から集まったボランティアに取り組み中高生たちと自分たちの取り組みの紹介を通して交流してきました。今回は白石踊の伝統を受け継ぐ会の21人のメンバーを代表して参加し、白石踊を表演し会場にいた約50人の中高生に白石踊を知ってもらいました。発表した次の日



に開かれた表彰式では文部科学大臣賞もいただきました。このコンテストは普段ボランティアに取り組み中高生を褒めたたえようという趣旨で開催されているものであり、だれでも参加することができます。会場では各々の取り組みについて話し合い、意見の交換も行います。新しい友達もたくさん作れますので、普段からボランティアに取り組んでいる方はぜひ参加してみてください。

### 第7回「創造力、無限大。高校生ビ ジネスプラン・グランプリ」に応募数 数3,808件の中から10組のファイ ナリストに選出され、東京大学で開催 された最終審査会に参加しました。

高校生「ビジネスプラン・グランプリ」に参加して

高3 渡辺 陽

私は「白石踊80年の伝統を受け継ぐ会」の一員として1月12日に東京大学で開かれた高校生ビジネスプラン・グランプリに参加してきました。このコンテストは高校生がビジネスプランを提案しその実現性の高さや獨創性を競い合うもので、この手のコンテストでは日本最大級の規

模です。上位10組であるファイナリストとして参加し、白石踊を世界中に広めるバーチャルアイドルを紹介しました。また、各自自治体が白石踊以外の伝統文化でもバーチャルアイドルを作成し、一般人が誰でも楽しむことができるプラットフォームの構想を発表してきました。表彰式では審査員特別賞を受賞することができ、白石踊の知名度を向上させることができましたのではないかと思います。

### 弓削育之先生

### 第31回岡山県教職員卓球選手権大会 男子シングルス特A級 優勝 男子ダブルスA級 優勝



弓削育之先生  
が第31回岡山県  
教職員卓球選手  
権大会 男子シ  
ングルス特A級  
および男子ダブル  
ルスA級で優勝されました。

「前回は準優勝だったので、今回の優勝の嬉しさは格別です。感謝の気持ち忘れず、ますます頑張ります」と語る弓削先生の今後のご活躍をお祈りしています。

## 活躍おめでとう

- 12/22(日) 第1回中国高等学校少林寺  
拳法部新人大会(＠広島県立総合体育館)
- ・男子単独演武の部：高2坂本莉来(優勝)
- ・女子単独演武の部：高2能勢采奈(第  
6位)、高2原田麻未(予選敗退)
- ・女子組演武の部：高1虫明紗桜理・難  
波日奈子(第4位)

努力が功を奏した

高2 坂本 莉来

僕は、12月22日に広島県にて行われた第1回中国高等学校少林寺拳法新人大会に出場しました。記念すべき第1回目の大会ということもあり、普段の大会とはまた少し違った緊張感がありました。ですが、もしこの大会で優勝することができたら「初代チャンピオン」になれるということもあり、気合は十分に入っていました。この大会は県新人大会から約1か月半後で、練習期間は決して長くはありませんでした。しかし自分の目標は常に「今までの自分を越える」ことなので、

とにかくこの期間を無駄にしないように一から基本を見直し、全力で修練に励みました。そうして大会当日を迎えました。今までの自分は他校の選手の調整や通し練習を見て緊張することが多かったのですが、この大会は全く緊張しませんでした。この大会までの期間、他の中国地方の選手の誰よりも練習したという自信があったからです。おかげで自分が演武をする番が来たとき、自信を持って入場できました。今までの演武の中で最高のものができました。得点も非常に高く自己ベストでの中国大会優勝を達成することができました。こうして念願の全国大会の出場権を獲得でき、夏の悔しさを晴らすこともできました。次は自身初の全国大会ということもあり、より一層気を引き締めていきたいです。そして金光学園、県、中国地方の代表選手として恥のない演武ができるよう頑張ります。自分の目標はここ数年、部から遠ざかっている全国大会決勝進出と入賞を達成し今までの先輩



6年間応援いただきありがとうございました。

高3 木科 雄登

いつも応援いただきありがとうございました。

あつという間に6年が過ぎ、金光学園も卒業です。

今シーズン、アメリカ合宿での振り付けから4回転ジャンプも習得し、良いスタートを切ったはずでしたが、自転車で



の事故で海外試合の選考会を辞退しました。

ここからの日々、自分と向き合い、あらゆる面からスケートを見直しました。

その中でも捻挫をしたり、なかなか結果が出せず辛い日々でしたが、シーズン最後のドイツ バヴァリアンオープンで3位に入ることができ、その1週間前の国体では岡山少年男子で優勝できました。

今シーズン悔しい思いはたくさんありましたが、これからのスケート人生へのステップと受け止め、4月より関西大学で頑張りたいと思います。

金光学園卒 関西大学 木科雄登として頑張ります。これからも応援よろしく願っています。



中国中学選抜卓球大会を通して学んだこと

卓球部 中2 山本 晃成

2月1、2日に僕は山口県で開催された中国中学選抜卓球大会に出場した。

自分達にとっては初めての中国大会であったが、リーグ戦の初戦から昨年全国2位の野田学園中学と対戦した。結果は0対3で負けたが、初戦で野田学園と対戦したことで速いボールにも慣れてきたのと、少し緊張があったものの、集中することでだんだん緊張がほぐれていき、いいプレーをすることができたので、その後の2試合では苦しい展開になることもあったが、2勝することができ、ベスト8を決めた。

これから日々の練習もこの大会で培った集中力を活かして、練習していると思う。



# やつなみ保護者会のページ

経験が人を育て成長へと導く

音楽部コーラス保護者 松田 則子

この度ご卒業される3年生の皆様、そして保護者の皆様ご卒業おめでとうございます。

私は音楽部コーラスに所属する高校2年の娘の保護者です。

娘と音楽部コーラスとの出会いは中1の冬に顧問の先生からお誘いを頂いたのがきっかけです。早いもので入部して5年が経ちました。

娘は音楽部コーラスに所属し沢山の大会やイベントに参加させて頂きました。特に印象に残っているのは中2の時に福島県で開催されたアンサンブルコンテストの全国大会に出場したことです。そこで全国大会のレベルの高さを痛感出来ました。

全国大会に出場した生徒が何を感じ今

後の練習にどう活かしたらよいか。これは全国大会に出場したからこそ感じられた貴重な経験だった様に思います。

また、毎年行う音楽部コーラスの集大成であるスプリングコンサートも印象に残っているイベントの一つです。そのコンサートでは高2幹部から中1までの現役部員の頑張りはもちろんのこと、熱心に指導して下さる先生方、OBやOGの方々のご協力で毎年感動と共に我が子の成長を感じることができました。

娘は今年の3月のこのスプリングコンサートで卒部します。この5年間、上手く歌えない時、そしてなにより先輩、後輩、同級生と意見がぶつかり合い部活に行かなかった時もありました。きつと我が子だけで無く部員一人一人も色々な思いを抱えながら部活に取り組んで来たのではないのでしょうか。

卒部するこの年まで色んな事があり色々な経験をしながら、諦めずに頑張つて部活に励んできました。最後まで部活を頑張つて来たことで、部員達の絆もより深まったのではないのでしょうか。共に歩めた全ての経験が生徒一人一人の成長に繋がりを、より逞しく成長できた5年間だった様に思います。そして社会に出た時、コーラス部で培った経験が生かされて行く事と思います。

この日までご指導下さった顧問の先生方に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

## 硬式野球部の一体感

野球部保護者 友原 俊夫

息子は高校から金光学園に入学し、野球部に所属していました。入学のきっかけは、中学時代、備南西地区選抜チーム

に選ばれ、そのチームの大半が金光学園野球部の選手達だったことでした。短い期間の活動の中で、金光学園の選手の野球に対する姿勢に刺激され、この仲間と一緒に甲子園を目指したいと大きな目標を持って入学しました。野球部保護者として応援していく中で、徐々に高校野球の奥深さを知って行く事になりました。金光学園のチーム自体も一体感があり、先輩、後輩の垣根を越えての信頼関係、先輩の練習に取り組む姿、日々の努力等様々な事を学びました。新チームとなり、保護者も私達が主導となって活動する立場となり、甲子園出場を全力でサポートしようと保護者で話しあったの思い出されます。そして第101回全国高等学校野球選手権岡山大会では、強豪校等に勝利しベスト4入り、3位表彰という輝かしい結果を残してくれました。校長先生、先生方、吹奏楽部の皆さんの力をくれた演奏、在校生、保護者の皆様、野球部OB・後援会の方々とベンチ、スタンドが一体となつての「一心」の応援は選手達の大きな力となり、本当にありがたかったです。ここまで指導してくださっ

## 学園生としてのプライドを持ち続けて バスケットボール部保護者

菅田 章代

息子が120周年の記念すべき年にご縁をいただき、学園に入学させていただいてから、早6年。あつという間に卒業を迎えました。息子はバスケット部に属し、縦横の素晴らしい仲間たちに恵まれて、部活三昧の6年間を過ごしました。難しい時期の息子たちを時には厳しく、しっかりと温かい目で成長を見守り、ご指導いただいた細川先生、森下先生、西山先生には本当に心から感謝を申し上げます。入部当初「子供たちが嫌がっても気にせず応援に来てください」とお声掛けいただき、初めは親が関わる事に躊躇もありました。しかし、1回、2回と応援に行くと、部員の子供たちの顔がわわり、保護者の方々と顔見知りになり……いつのまにか生意気盛りの息子の心配事や外での様子を情報共有したり、相談したり出来るようなバスケット部サポーターとしての保護者同士の連携も強くなりました。息子たちが感じていること、努力していることを垣間見る機会にもなり、私自身

た監督、コーチにも感謝すると共にチーム、保護者が一体となって活動出来たこの期間は一生の思い出です。今後も金光学園、また野球部を応援していこうと思っています。

## 仲間

ラグビー部保護者 馬場 尚美

思い起こせば3年前、高校から金光学園に入学した息子は、入学前のスクーリングの時にできた友達に誘われてラグビー部に入部しました。想像もしていなかった部活動で、当時はとても驚いたのを覚えています。強いチームとはいえませんが、ミスした時は励ましの声掛けを、得点には至らなくてもナイスプレーの時は全員で喜べる温かいメンバーに囲まれ、初心者の息子も楽しく活動していました。先輩方が引退すると、部員不足から他校と合同チームになることがほとんどで、試合の度に変わるメンバーと意思疎通を図る難しさを感じているようでした。思うように力を発揮できない日々の中、2年生の3月に県内小人数校岡山県選抜選手に金光学園ラグビー部2年生全員が選

ばれました。大会は山口県で行われ、得点がなかなか入らず苦戦しました。ゴールラインまでもう少しの所でスクラムを組んで前進、あともう少し、もう少しと力いっぱい応援し、一瞬の隙にボールが出てトライが決まった時はあまり嬉しくて思わず涙が出てしまいました。今でも忘れられない得点です。

3年生最後の大会で、以前合同チームになった他校の選手から「金光学園と同じチームになったかった」と声を掛けられました。少ない関わりの中でもラグビーというスポーツを通して仲間の輪が広がっていることを実感し、敵でありながら応援してくれる姿に心動かされました。ラグビーは、体と体が直接ぶつかり合うことが多いスポーツです。だからこそ、自分と相手を思い合う必要があります。ラグビー部の仲間と交わした会話、体感した痛み、心から喜びあえた瞬間はこれからの人生に役立つことと信じています。最後になりましたが、息子達へ熱心にご指導頂いた先生方に感謝申し上げますと共に、金光学園の今後益々のご発展を心よりご祈念いたします。

色々と学ぶ事が多くありました。

息子達の代では、初めギリギリのメンバーでなかなか結果も出せず、悔しい思いを沢山しました。紆余曲折の中、どんなに辛い時期も最後までみんな諦めず、前向きに挑み続け、県大会進出、ベスト16と先輩方から受け継いだバトンを後輩に繋げる事が出来ました。金光学園バスケットボール部で過ごせたことに親子共々感謝の気持ちでいっぱいです。これからも応援しています。本当にありがとうございました。

## 教養部編集後記

教養部 栗田 三穂

卒業生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。創立125年を迎えた記念すべき年。今年も多くの生徒たちが新たなステージを目指し様々な想いを胸に学園を後にします。3年ないし6年間という年月の中で、多くの先生方の厳しくも優しいサポートのもと、喜びや悲しみを共に分かち合い共に過ごした友との別れ。卒業が嬉しくもあり悲しくもあり。そんな卒業生の思

いをほんの少し垣間見ることが出来ました。というのも、本年度縁あってやつなみ保護者会役員となり、生徒のように先生方のお力添えと、役員の皆様、多くの保護者の方々のご協力を得て活動させて頂きました。共に過ごす時間の中で、多くの方との出会いがあり、学びがあり、想像以上に楽しく、今は卒業生のような心境で、子どもの卒業と共に学園との繋がりが薄れてゆくのかと思うと何とも言えない寂しさを感じています。来年度は在校生として最後の年となりますが、子どもと共に学園生活を楽しみ、卒業後は保護者会OGとして学園に遊びに行き、金光ペアを作りたいと思っています(笑)。先生方、役員の皆様、保護者の皆様、多くの出会いとご協力に感謝いたします。ありがとうございました。歴史ある金光学園のますますのご発展をお祈りいたします。

# 可能性は無限大

井上 全悠 (高66回卒)



毎日のように耳にする2020年東京オリンピック・パラリンピックが目前に迫ってきました。私はいま卓球でパラリンピックに出場するため、最後の勝負に挑もうとしています。その勝負への始まりは金光学園でした。

中学1年生のあの日のことは、今でも鮮明に覚えています。5月に入り、楽しみにしていた一日入部の日がやってきました。私は学園に入学する前から、部活

動は卓球部と決めていました。幼い頃からスポーツは大好きでしたが、生後8カ月の時の交通事故で足に障がいが残ったため、激しい動きのあるスポーツは難しい状態でした。そこで出会ったのが卓球でした。私はある日、卓球部の練習場所である小体育館に一直線に向かっていた廊下で、卓球部顧問の内田雅彦先生に声を掛けられました。いま思えばあの渡り廊下での出会いが、私の卓球人生の始まりだったように感じます。

中学生の時は無我夢中で練習していましたが。そんな時、中学2年生でパラ卓球との出会いがありました。岡山県出身であり、障がい者初のプロ卓球選手である岡紀彦さんとのご縁で初のパラの大会、それも国際大会に出場しました。また中学3年生の時は、団体戦で岡山県2位に

なり、中国大会にも出場しました。

高校生の時はキャプテンを務めました。パラの大会があり不在になることも多い中、周りのサポートのお陰で中国大会に何度か出場しました。またパラの大会では高校1年生の時に、全日本選手権に於ける大会で優勝し、初の日本一となりました。その翌年、高校2年生の時からナショナルチームで日本代表として活動しています。この頃からパラリンピックということを少しずつ意識し始めていきました。そしてそれは遠い夢から現実になろうかという所まで来ています。

現在は山陽学園大学・短期大学の事務職員として所属しており、競技に専念できる形を取らせて頂いています。今の大きな目標としては、2020年東京パラリンピック出場及びメダル獲得です。厳しい戦いが続いています。残り少ないチャンスを活かして、良い結果を出したいと思います。また今後としては、パラ卓球の普及活動も行っていきたいと思っています。私は非常に恵まれた環境であり、ここまで競技を続けることができていますが、パラ卓球はまだまだ知られていないと思います。実際のところ、

私自身もパラ卓球というものがあると知らず卓球を始めました。そのため私が活動をしていくことにより、もっともっとたくさんの方にパラ卓球を知って頂きたいと思っています。そうすることにより、これからの障がいを持っている若い人達の可能性が広がっていくと思います。障がいとは決して悪いものではなく、自分の可能性を広げてくれるものになるかもしれません。実際に私の可能性は、大きく広がったと思います。誰にでもできることではない、貴重な経験をたくさんさせて頂いています。この経験はこれからの人生にとって、大きな財産になることは間違いないと感じています。これからも私が活動することにより、障がいを持たれている方々に、少しでも希望や元気、そして感動を与えることができれば幸いです。

最後になりましたが、私は学園でたくさんの方のことを学び成長しました。そして大きな夢や目標を持つことができました。それもたくさんの方に支えて頂いたからです。本当に感謝しています。そして何よりも、金光学園を選んで良かったと強く感じています。

## 略歴

競技クラス・クラス7

パラ卓球日本代表であり、これまで約50回の国際大会に出場。

個人戦、団体戦を合わせて、約50個のメダルを獲得。

現在は東京パラリンピック出場及びメダル獲得を目指している。

2008年 金光学園中学校入学

2009年 国際大会初出場(東京アジアユースパラゲームズ)

2011年 金光学園中学校卒業

2011年 金光学園高等学校入学

2011年 初の日本一になる

2012年 日本代表としてナショナルチームに選出

2014年 金光学園高等学校卒業

2014年 山陽学園大学入学

2014年 仁川アジアパラ競技大会

2017年 シングルス 銅メダル

2018年 スロバキア世界選手権団体戦 銅メダル

2018年 山陽学園大学卒業

2018年 山陽学園大学・短期大学事務職員

2018年

インドネシアアジアパラ競技大会 シングルス・団体戦 銅メダル



## 留学生紹介

オーストラリア オリバー・ジョンソン

(2学期始業式のスピーチ原稿より)

みなさん、こんにちは。たくさんの人



はぼくを知っていますけど、ぼくの名前はオリバーです。ぼくはオーストラリアからりゅう学生です。去年の12月6日に金光学園に着きました。そして今月の25日までここで止まります。とても素晴らしいと思います。今、オーストラリアで夏休みです。だから、オーストラリアに帰ったときに高校2年生になります。も

ちろん、日本語を勉強するつもりです。

学校で日本語を勉強することが大好きです。すぐおもしろくて楽しいと思います。しよう来、りゅうちような日本語を話すことができ、日本で英語のきょうしになりたいですから、りゅう学生になりました。日本に来るによって、たくさんの単語を学んだり、日本の文化についてわかったりできます。金光学園でそんなかどうかをできますから、すごいです。生と先生はいつもぼくと日本語で話します。よく分かることがむずかしいですが、もつとかんたんになっています。それはとてもいいです。もつと上手になっています。さらに金光学園でいろいろなでんとうてきなぶかつをできますから、日本の文化について学べます。ホームステイをするによって日本の生とのせいかつについても学ぶことができます。オーストラリアの生との生活より日本のせいかつの方がいそがしくてむずかしいと思

います。だから、ぼくのけいけんはとてもおもしろくてゆういぎです。ぼくのかんしゃの気持をつたえたいです。

ひろいさん、ぼくのホストファミリー、どうもありがとうございます。

金光学園の先生、どうもありがとうございます。どうもありがとうございます。

金光学園の生と、どうもありがとうございます。どうもありがとうございます。

みなさんどうもありがとうございます。

みなさんはよくへしげきをあげますから、オーストラリアに帰る時に日本語をよく勉強するつもりです。がんばります。ぼくののこりのけいけんを楽しみにしています。いつしよにたくさんのいい思い出を作りましょう。ありがとうございます。



スリランカ ハンシカー・ネットミニー

ヘッティアーラッチ

(授業で書いた作文より)



### 金光学園の留学生活

日本へ行く夢があつて、やっと、奨学金をもらつて日本へ来ました。とても嬉しかったです。新しい生活をこれから始めるという気持ちを持って金光学園の留学生活を始めました。私のクラスは1年生5組です。とてもいいクラスです。皆、凄く仲良しになりました。担任の東山先生もとても良い人です。大好きです。他に月子とさおりとみおとなかと、、さらいなどいろいろな人といっしょにはじめて仲良しになりました。5組以外に1

番好きなクラスは2組です。好きな人がほとんどこのクラスにいるからです。大

好きなりようかもあるし、日本語の勉強を手伝う人もいるしこのクラスはいいと思います。体育の時間も楽しいです。毎日2回ぐらいしています。いつもお世話になっていきます。ほかに2年生の6組と1組にいる時間も好きです。他のおもしろいというのは、クラブかつどうです。大好きなクラブは柔道部です。ちよつと辛いけど大好きです。バトミントンと野球部にも入っています。日本の部活動はよく楽しんでます。先生方もとても良いです。いつも手伝つてくれてうれしいです。ほとんどの1年生は仲良しになっています。良かったです。皆友達になってほしいです。この学校のことが良いすぎてずつと皆と一緒に住みたいです。帰国したくないです。日本に来る前からきょうみがありました。この学校で、これより凄く好きになっています。いつもお世話になっています。ありがとうございます。また、日本に来るつもりです。

アメリカ ガブリエル・コロソ

(授業で書いた作文より)



日本がだいすきだから日本のぶんかはおもしろいし日本はほつけきれいです。おかやまはさいこうです。がっこうはたのしいです。私のともだちはおもしろいです。みんなやさしいです。私のホストファミリーはやさしいです。ホストファミリーにかんしゃしています。日本語のうりよくしけんをうけたいです。日本のだいがくに行きたいからしよらいは日本にすみたいです。でももつとトレーニングがひつようです。

# ある日のホームルーム 高校1年2組



1月24日(金)の6時間目に高校1年2組のLHRの様子を取材させていただきました。この日は、昨年12月から約1か月間、クラスの一員として1年2組で過ごしたオーストラリアからの留学生であるオリバー・ジョンストンくんのお別れ会が行われました。

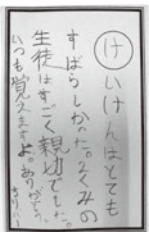
オーストラリアにあるラッドフォードカレッジから金光学園に來校したオリバーくんは、日本のことが好きで、日本語を上達させたいという目的を持ってやってきました。そんなオリバーくんにとっての最後の出校日に、もう一つ金光学園での思い出をプレゼントしたいという生徒たちが企画しました。

5時間目の授業が終わると、慌ただしく準備が始まりました。教室の黒板には大きく「オリバー」の文字が書かれ、班の形に並べた机の上には色とりどりのカードが配られました。クラスメートのそれぞれの今年の目標が書かれたこの



カードを使ってゲームを行うようです。競技は日本らしく「かるた」。担任の松田先生が書いた札からかるた取りが始まりました。クラスメートの書いたものはどれもユーモアたっぷりです、実行委員が読み札を読むたびに笑いが起こります。中には「オーストラリアに帰っても元気でね」という、オリバーくんへの温かいメッ

セージが書かれた札もありました。オリバーくんにとっては初めて挑戦する日本の遊びで、しかも札に書かれた文字は日本語。きっと難しいだろうと、生徒たちが助け舟を出そうとしたとき、読み上げられた札を見事オリバーくんが獲得し、周りからは歓声が上がりました。そして最後の1枚が読み上げられます。「けいけんはとてすばらしかった。2くみの生徒はすごく親切でした。いつも覚えますよ。ありがとう」丁寧な字で書かれたオリバーくんらしい言葉に、クラス中から大きな拍手が起こりました。



顔いっぱいです。途中、高校生の楽しげな声が聞こえたのか、何人かの中学生がベランダから顔をのぞかせました。オリバーくんは気付いた中学生から手を振られたり、名前を呼ばれたりする様子からは、校内での人気がうかがえました。

そして鬼ごっこを存分に楽しんだ後、教室に戻り、いよいよお別れ会の最後の企画です。実行委員からオリバーくんへのメッセージとプレゼントが渡されました。プレゼントは、ポケモンが好きなオリバーくんを喜ばせようと、絵の得意な生徒が表紙にポケモンのイラストを描いたノートで、とても喜んでくれました。

そしてなんと、オリバーくんからも2組のみんなにプレゼントがあると言います。これには全員が驚きました。クラスの全員にオーストラリアの葉書とボールペン。しかも葉書には一枚ずつ手書きのメッセージが書いてあるのです。一緒に過ごした日々を思い起こしながら準備してくれたプレゼントに、教室全体が感動に包まれました。

今回のLHRでは、1年2組の



ABC  
**中学校1年生**  
**English Recital**



2020年2月14日(金)の6時間目に、120大講義室にて、イングリッシュリサイタルが行われました。第一部では、学年代表者による英語での発表が行われました。今年度、中1では英語の授業で全員がエッセイを書き、クラスで発表をしました。今回のエッセイの内容は、「金光学園の紹介」や「ある日の自分の生活の紹介」です。オリジナルの自己紹介や、毎日書いている日記の紹介もありました。内容、英語の発音、リズム、イントネーション、声の大きさ、聞き取りやすさ、姿勢

など、それぞれ優れたところをもつ、学年の中で選ばれた代表者が発表しました。クラスで発表する時と比べ、多くの保護者の方や先生方が聴いている状況では緊張感もひとしお。前日のリハーサルでは笑顔が見られた人も、とても緊張しているようでした。そんな中、発表者に勇気を与えたのは聴衆であるクラスメイトの和やかな雰囲気でした。発表者のスピーチに比べ、エールを送っていました。素敵な笑顔、身振り手振りを加えて、自分らしい発表で、それぞれの個性が生きたスピーチを見ることができ、とても素晴らしいと感じました。この日までにスピーチの練習を放課後残って山本先生と取り組んだり、家庭で取り組んだりしてきました。発表者の中西くんは「スピーチをした全員いいスピーチだった。みんな内容が良くてすごいなと思った。たくさんの人の前で英語を話している経験になった」高橋さんは「家では発音や単語の中で強く言う部分などに気を付けて、たくさん練習しました。とても緊張していた練習より上手くできなかったけど、達成感やこの緊張感がいい思い出になったと思います」栗元くんは「今まで練



習してきたおかげでかまらずに言うことができました。今回の経験をいかして、グローバル研修でも学んだ英語を存分に活用していきたいです」と感想を述べていました。聴衆の西くんは「皆がそれぞれの工夫をほどこしていて驚いた。知らない単語も出てきたけど、堂々と話していたからなんとなく伝わった。情報量も大切だけど話す時の会話術も大切だと思った」伊藤さんは「代表者の人は、ただ英語を話すだけでなく、表情の変化、身振り手振りで相手にわかりやすく、面白みのある発表で、工夫されていることがよくわかった」と感想を述べていました。第2部は全体合唱でした。3月の「ゆずり葉の会」で先輩に向けての歌を練習している途中ですが、この日は保護者の方



への感謝の気持ちを込めて全員で合唱しました。和やかな雰囲気、最後まで笑顔で歌い続けることができました。指揮は尾高さん、伴奏は原田さん。当日の司会を中山さんがするなど、この日の行事は自分たちで進めました。来年度も、全員で楽しく学んで様々な行事に取り組み、成長していきたいと思えます。



**生徒入賞作品**

**入賞おめでとう**

▼第65回 青少年読書感想文岡山県コンクール

- |    |    |       |
|----|----|-------|
| 入選 | 中3 | 近藤 高弘 |
|    |    | 高倉すなお |
|    |    | 遠藤万結香 |
|    | 中2 | 岡田菜々子 |
|    |    | 山口奈津美 |
| 佳作 | 中1 | 城戸 直之 |

▼後藤新平・新渡戸稲造記念 第21回 全国高校生・留学生作文コンクール 2019

- |                 |       |       |
|-----------------|-------|-------|
| 読売新聞社賞(第2位)     | 高1    | 田中 宏樹 |
| 「私のSDGs はじめの一步」 |       |       |
| 奨励賞 高1          | 山口 祐紀 |       |
| 「私たちの未来のために」    |       |       |



# 「うつつみ魂」

うつつみ魂

1組 山口 奈津美

「うつつみ」

学年集会の日は、この言葉をよく感じた一日だった。私は振り返ってそう思う。「うつつみ」という言葉を知ったのは、学年集会のテーマが「うつつみ魂」だからである。初めてその言葉を見たとき、意味が分からなかった。だから、ネットで調べてみると、「うつつみとはみんなで協力することこそ優れて賢いことだ」という意味だ」と書いてあった。私は納得し、「うつつみ魂」というのは良いテーマだなと思った。

「うつつみ」を一番感じたのは、学年集会での一組の発表である。一組は劇をすることになった。実行委員を中心に、練習を進めていき、私はパワーポイントとダンスをすることになった。しかし、私はダンスがあまり得意ではなく、みんな

など合わせて踊れるかどうか不安だった。初めてのダンスの練習で、やはり私はついていくことが難しかった。嫌だなと思って少し諦めかけていると、友達が私

にわかりやすく丁寧にダンスを教えてくださいました。「もう一回教えてくれる？」とわたしに言うと、何度も何度も同じところを教えてくれた。私は友達のおかげで気持ちが楽になった。優しい友達がたくさんいて、本当に助けられた。本番、完璧にはダンスを踊れなかったけど、楽しくみんなで踊れてよかった。楽しく踊れたのは、友達のおかげで友達と協力することの大切さを痛感した。

そのほかにも、2限に見たプロフェツシヨナルの沖繩のガイドさんの話、名前を覚えて、雰囲気も溶け込めていない人に声をかけたりとみんなで一緒に楽しく楽しむことの大切さを言っていた。また、地元の人々に協力してもらって戦争の話聞き、それを修学旅行の生徒に伝えていたりもしていた。そうやって、うつつみの心があるからこそできていることがあることをDVD鑑賞で学べた。

学年集会を終えて

2組 西山 花音

私は今回の学年集会で多くのことを感じることができた。

一つは、この学年集会で2組がみんなで作上げるクラスの出し物は最後だったということ。このことを先生から聞いた時、必ず良いものになりたいと友達と実行委員に立候補した。いつもは立候補しないような人もしていて、その分みんなの2組に対する思いが強いことがよくわかり嬉しかった。また、撮影しているときに文句を言う人は誰もおらず、それぞれが友達と練習してクラス全体が楽しみながら取り組んでいること、積極的に撮影に参加していることで、クラスの絆が強まっていくことが分かった。

もう一つは本番当日。1時間目がホールムームで歌の練習をした後、みんなでもバスケットをして遊んだ。歌の練

うつつみ魂!!

3組 岡本 愛花

習ではみんなが一生懸命に個を尊重しつつ作った映画をより良いものにするため、それぞれがダメな点を注意しあって練習することができた。遊んでいる時はみんなが自分の意見を自由に伝えられていることが分かり、とても嬉しかった。本番直前にみんなで円陣を組んだ時は、2組の出し物は必ず良いものになると確信した。舞台袖にいる時は、音が小さく「せっかくな頑張ったのに……」と言ったりもしていたが、クラスみんなで「歌で頑張ろう!」とお互いを励まし合った。歌で今までの努力が伝わるように、みんな一生懸命に、また楽しそうに歌っていて自分自身も元気が出た。

この学年集会では、完成形としてはまだまだ未熟で相手に伝わりにくいところもあったと思うが、クラスや学年のみんながとても楽しんでいたので、後悔はしていない。これでクラスの出し物が終わってしまったことはとても悲しいが、今回の学年集会の練習を通してさらに深まった絆で、来年も最高学年としてこのクラスで培ったことを誇りに思い、頑張りたいと思う。

「これで本番大丈夫なのかな」という気持ちで、私は学年集会までの日々を過ごしていた。理由は一つ。インフルエンザや風邪で劇に出る人が休んでしまったからだ。代役も決めなければならなくて、とても大変だったことを覚えている。もちろん、インフルエンザにかかったひとや休んだ人を責めたりはしない。仕方ないことだし、今の人数で3組らしい出し物ができるように夢中だったと思う。全員で繰り返し練習しているうちに、本番が楽しみになっていく自分がいた。この時私は学年集会が特別な思い出になることを知る由もなかった。

本番当日。私たち2年生は、学年集会の前に沖繩でバスガイドをしている崎原真弓さんを紹介した「プロフェツシヨナル」という番組のDVDを見た。私は、このDVDを見て泣いてしまっていた。私が涙もろいということももちろんあるが、素直にこの人はすごい人だと思った。バスガイドとして戦争のことを語り継いでいたが、その伝え方は誰もが感動するよ

うなものであった。その場には私

もが辛くなってしまったのだから。このDVDを見ることができて本当によかったと思う。ついに学年集会が始まった。3組の出し物の順番となると、とても緊張している自分がいた。でも楽しんでる自分もいた。3組のみんなが円陣を組んだ。みんなやる気に満ちていたと思う。劇は無事に終えることができ、とても嬉しく感じた。他の組の出し物もとてもおもしろかった。だけど私はやっぱり3組が一番だと思った。他の3組の人もそう思ってくれているとうれしい。私にとつても大切な思い出ができたと感じた。

その後の全体合唱で、私は三線を弾いた。自らやってみたいと思い立候補したのだが、今思えば立候補していなかったら後悔していたと思う。たかさんの練習をしたから、弾き終わった時の達成感はずかかった。またやりたいと思ったし、挑戦できて本当によかった。

私はこの日学んだことを活かして、沖繩修学旅行に行き戦争について学びたいと思う。それまでの数か月間を、今のクラスのメンバーと協力して楽しい日々を過ごしていきたい。

## 学年集会以学んだこと

### 4組 荒金 由衣

私は19日の学年集会以先立って行われたDVD鑑賞と学年集会的の劇で、人を楽しませることの大切さや、沖繩の戦争、産業などについて、詳しく知ることができました。



まず、2時間目のDVD鑑賞では、バスのガイドの崎原さんに密着するという内容の番組を見ました。崎原さんは、番組の途中で「沖繩に来てくれた人に、満足して帰ってもらいたい」と言っていました。私は、その言葉に心打たれました。私は周りにいる人を楽しませることができると、いつも楽しんでいられるのか。それは私だけではないのか、と心配になりました。私は

崎原さんのように、みんなの前で堂々と歌えるわけでもないし、空手もできないけれど、私なりに面白い話などをして、周りの人を少しでも幸せにしてあげたらいいなと思いました。

午後から始まった学年集会以では、私たちは「大きなパイナップル」という劇をしました。4組はクラス発表で一番最初でした。私は少し緊張していました。ですが、劇が始まる直前で陣を組み、「絶対一番笑わせるぞー!!」「おー!!」というかけ声で、自信がわいてきて、思いっきり楽しもう!! という気持ちになりました。そして、劇が始まってからは、みんなが笑いながら進んで、途中からはお客さんを楽しませるということより、私たちが楽しむという形に変わっていききました。完ぺきな劇をつくらうと思っていました。完ぺきな舞台になると、みんなが笑ってしまい、この際楽しもう!! と思っていました。私たちが楽しむのもいいことですが、やっぱり、お客さんも楽しませたいので、もっと演劇を経験して、私たちとお客さんの両方が楽しめるような劇を作っていきたいです。



# 会報

## 第五回評議員会 2月21日 13時30分

14時00分 亀山副会長司会。内容は以下のとおり。一、甲田会長挨拶。二、協議事項。①令和2年度会長・副会長・協議選出の選考委員を決定。選考委員長・加賀直美。選考委員、宮口智子、五島智子、栗田三穂、島中律子、高橋洋未。②令和元年度決算見込みについて。③友愛セールの収益金の使途について。ほとま体育館下のトイレ改修に使用することが決定された。④令和2年度保護者会総会の日程。5月2日(土)に決定。講演講師が三谷宏治先生に決まったことが報告された。

## 第三回全役員会 2月21日 14時20分

15時40分。亀山副会長司会。役員会の内容は以下のとおり。一、甲田会長挨拶。二、金光校長挨拶。三、学校近況報告。(横山教頭)四、協議・報告事項。①指導・教養・庶務各部から年間総括と次年度への申し送り事項。②研修・出張報告。③令和元年度会計決算見込みの報告。④

平成30年度及び令和元年度友愛セール売上金の使途について、ほとま体育館下トイレ改修に使用することに、評議員会で決定したことが報告された。⑤令和2年度会長・副会長・監事選出の選考委員決定の報告。⑥令和2年度地区委員・評議員選出について。⑦金光教春の大祭の湯茶接待奉仕のお願い。⑧教職員外部診断のお願い。⑨令和2年度やつなみ保護者会総会について。五、その他連絡事項。六、丸本副会長による閉会挨拶。

## 諸会合

○1月22日 幼小中高PTA連合研修大会(岡山) 甲田会長、上迫・亀山・三原副会長、川田・山下監事、加賀評議員、佐藤副校長、横山教頭が参加。  
○1月24日 学校保健委員会 甲田会長、宮口指導部長が出席した。

## 表紙の言葉

中1 新谷 智也

絶頂の城たのもしき若葉かな  
鳥根の、当時のままの天守が残る国宝・松江城。この版画の「絶頂のたのもしき城」です。夏の光を浴びて、青々しく茂った若葉は、俳句の中の「若葉」のように新鮮です。

今も当時の姿を残す城、青々と茂った若葉の光景を見て、新しい中学校生活を、良いものにしようと決意する自分を描きました。

中学校生活も、もうすぐ一年がすぎ、先輩になります。

学校生活にもなれ、授業や行事、部活動などで、協力したり、競ったり、いろいろな経験を一年間通じてしました。

これからも、この決意を大事にして、良い思い出が作れるようにと思いつながら、この作品を創りました。

# 生徒会活動

《**中学生徒会**》 次年度の生徒会を担う生徒会長選挙が1月8日に公示され、中1・2の8クラスから8名(男子4名・女子4名)が立候補した。16日の立会演説会では、政策や公約と共に候補者の熱い思いが訴えられた。22日の公開質問会では多くの質問が出され、候補者の考えを更に理解できる良い機会となった。24日の投票の結果、会長に2年の磯川和くん、副会長に2年の原田大地くん、平井ひよりさんが当選した。認証式後、2月12日に新事務局長募集のための説明会を行った。中1・2から約40名が参加をした。会終了後の第一次意思確認では、30人以上が「事務局員をやりたい」と名乗りを上げた。しばらくは現事務局員と一緒に活動し、3月10日の春季球技大会や3月17日に行われる中学ゆずり葉のなどの準備の中で、段取りや運営の仕方を身に付けていく。最終的には新年度になってから

新事務局員を決定する。

《**高校生徒会**》 2月7日(金)、第2回生徒会総会が行われた。今年度の各種専門委員会、学年代表者会議、執行部の年間総括について審議され、すべて原案通りに承認された。運営は円滑に進み、舞台上で発言した各種専門委員長、学年代表者会議議長、執行部からはいずれも堂々とした態度で発表を行い、質問や意見に対して誠実に答えた。

《**中高新聞部**》 2月の卒業式にほつま新聞207号を発行した。中学生は浅口郡里庄町パン屋さんに取材に行くなどの活動を行った。

《**天文部**》 1月、岡山天文博物館の施設ガイドブック英訳の取り組みにおいて、浅口市長より中2・中3合わせて9名の部員が代表で感謝状を頂いた。

《**柔道部**》 1月6日に初稽古を行い、本部参拜の後本校柔道場で稽古を行った。保護者にもお越し頂き、新年の良いスタートが切れた。

1月18日、19日に岡山武道館で第42回全国高等学校柔道選手権大会岡山大会が行われ、男子団体戦は1回戦で県立勝間田高校に敗れた。男子個人戦は9名が出

場し、それぞれが健闘した。

《**電気科学部**》 8月10日、WRO中国大会が岡山情報ビジネス学院で行われ、中学生2チーム、高校生2チームが出場、高校1年柗屋希、高校2年岡田敬生チームが優勝し、全国大会への出場を決めた。8月25日にはWRO全国大会が兵庫県関西学院大学で行われ、前述2名に高校2年池元司を加え出場した。結果は予選敗退ではあったが、決められた時間でゼロからロボットを組み立てて競技を行う難しい課題にしっかりと取り組んだ。

11月17日、ロボカップジュニアジャパンの倉敷ノードがライフパーク倉敷で行われ、レスキューライン部門に中学生2チームが日本リーグに、高校生1チームがワールドリーグに出場し、高校生チームが岡山ブロックへ出場を決めた。12月22日、岡山ブロックのレスキューラインに出場し、優勝、4月24日から和歌山で行われる全国大会へ出場を決めた。

《**生物部**》 2学期終わりの半日授業の午後を利用し、短期留学生のオリバー君とともに、2度遙照山を散策した。季節がら、昆虫等は少なかったものの、水辺の鳥や、遙照山の植物を観察しながら交流

を楽しんだ。

《**高美術部**》 岡山県高等学校美術展に9名が油彩画を出品した。作品は2月4日(火)～9日(日)に天神山文化プラザに展示された。作品搬入には2名が参加し、他校の生徒と交流しつつ、会場準備、作品の鑑賞を行った。

《**書道部**》 第56回全国競書大会(学年優秀賞) 高1進藤春菜(大会委員長賞) 高2大野未貴・高1赤沢梨吏(奨励賞) 中3遠藤万結香・中3山田紋歌(特薦) 石井雄人・中1大塚萌衣(金賞) 中2寺川なのは・中1矢野心優・中1石井怜実・中1山口留衣

第40回ふれあい書道展(筆都大賞) 高2赤沢梨吏(特薦) 高1進藤春菜・中3山田紋歌(奨励賞) 遠藤万結香

《**茶道部**》 1月16日(木)には初釜を行った。1月26日(日)には土佐家旅館を会場に行われた「昔あそび冬の陣」に参加し、来場していた子供たちにお茶のたて方などを説明し交流した。2月9日(日)には本校の碧水庵で竹園会が行われ、生徒たちは日頃の練習の成果を発揮することができた。

《**音楽部吹奏楽団**》 12月25日(水)・26

日(木)は倉敷市芸文館にて第51回岡山県アンサンブルコンテスト中学校の部に参加して木管8重奏は「風邪の戯れⅡ」、金管8重奏は「楽市楽座さくらの抄」を演奏して、それぞれ金賞を受賞した。1月25日(土)は倉敷市民会館にて第63回高梁川流域高等学校音楽会ジョイフルコンサートに興譲館高等学校吹奏楽部と合同で参加して、「スーパード・ヒーロー」「宿命」「シユガーソングとピターステップ」を演奏した。

《**音楽部コーラス**》 12月14日(土)クリスマススキズパーティー《イオン倉敷》  
曲目 クリスマスソングメドレー、ハンデル、Gloria、グランドエスケープ、パプリカ、JOY1  
1月25日(土)高梁川流域音楽会ジョイフル《倉敷市民会館》  
曲目 Happy Birthday、アポロンの竖琴

今年度から2月のアンサンブルコンテスト参加を見送り、3月22日(日)里庄総合文化会館フロイデにて開催するスプリングコンサート(第17回演奏会)へ向け、全力で取り組んでいる。

《**高放送部**》 2月15日に市民会館金光で

開催された高2音楽選択者発表会に、機材準備や音響整備などで協力した。

《**文芸部**》 細々とはあるが、2名の部員が新聞への投書、小説の執筆等を行った。

《**軽音楽部**》 来年度のほつま祭に向けて練習を続けている。

《**ラグビー部**》 12月14日(土)から15日(日)に美作市長杯ラグビーフットボール大会に岡山朝日・岡山一宮・岡山城東との合同Aチームで参加した。2日間を通して合同Bチーム(倉敷・創志学園・鳥取合同)に0-58で負け、高松農業に14-12で勝ち、プレトリリーグで第2位となった。12月14日(土)から15日(日)に行われた中国五県ラグビーフットボール対抗戦に高1難波虎之介がU16岡山県選抜選手として出場した。令和2年1月3日(金)に正三会を実施した。多くの卒業生と交流試合を行い、物心両面での支援を頂いた。1月19日(日)からスタートした新人大会には岡山朝日・岡山一宮・倉敷工業との合同Aチームで参加した。1回戦は創志学園に28-65で敗れた。2月1日(土)の敗者戦では合同Bチーム

(岡山工業・倉敷)に24-19で勝利した。

合同チーム岡山県選抜選手に高2新谷理  
駆が選ばれた。

《中男子ソフトテニス部》 冬の間は、春  
からの大会に向けて基本的な練習に励ん  
でいる。

《高女子ソフトテニス部》 2月1日に浦  
安総合公園テニスコートで行われた、岡  
山県技術等級ソフトテニス大会の中級の  
部に萬木・佐藤ペアが出場し、予選リ  
グで敗退。

《中卓球部》 12月14日に山陽新聞社杯争  
奪卓球選手権大会に参加した。中学1年  
生男子個人の部で白神（L1）が準優勝  
であった。

12月26日に全国中学選抜卓球大会岡山  
県予選会に出場した。男子団体の予選  
リーグで岡大附属に3-0、倉敷天城に  
3-1で勝ち、決勝トーナメントで吉備  
に3-2で勝ち、決勝1次リーグで御南  
に3-0、東陽に3-1、総社東に0-  
3で2勝1敗、続く決勝2次リーグで中  
道に0-3、総社西に3-2となり、第  
3位で中国選抜大会への出場を決めた。

12月27、28日に鳴門オープン中学生強  
化大会に参加した。男子団体の予選リ  
グで北島Bに3-0、野市Aに3-0で

勝ち、決勝トーナメントで内宮Aに3-  
1、香東Aに3-1、準々決勝で鳴門第  
二に3-1、準決勝で港南Aに3-1で  
勝ち、決勝で城西Aに1-3で敗れたが  
準優勝であった。

1月5、6に丸亀オープン中学生強化  
大会に参加した。男子団体の予選リ  
グで香東Eに3-0、三島西Bに3-0、  
牟礼に3-0で勝ち、決勝トーナメント  
で連島南Aに3-0で勝ち、準々決勝で  
鳴門第二に1-3で敗れ、ベスト8で  
あった。

1月12日に井原後期個人戦卓球大会に  
参加した。男子個人で光田舜（L2）が  
ベスト8、予選2位トーナメントで山本  
（L2）が優勝した。

1月25日に岡山県中学生加盟団体卓球  
選手権大会に参加した。男子団体の予選  
リーグで倉敷福田に3-1、青江TTC  
に3-0で勝ち、決勝トーナメントで玉  
島北に3-0、準々決勝でねや卓球クラ  
ブに0-3で敗れ、ベスト8であった。

2月1、2日に中国中学校選抜卓球大  
会に出場した。男子団体の予選リ  
グで野田学園（山口）に0-5、八本松（広  
島）に4-1、北条（鳥取）に3-2の

2勝1敗で予選2位となり、決勝リ  
グで可部（広島）に0-3、出雲北稜（島  
根）に0-3、松徳学院（島根）に0-  
3、湖北（島根）に1-3、周東（山口）  
に0-3、中道（岡山）に1-3で敗れ、  
ベスト8であった。

2月15日にニッタク杯総社オープンカ  
デット卓球大会に参加した。男子団体の  
予選リーグで総社西Cに2-0、芳田B  
に2-0で勝ち、決勝トーナメントで竜  
操Aに2-0、総社東Bに2-0、準々  
決勝でTFとみやまに2-0で勝ち、準  
決勝で大森クラブに1-2で敗れたがベ  
スト4に入賞した。

《高卓球部》 12月14日に令和元年度岡山  
県高等学校卓球新人大会（ダブルス）に  
参加した。山本（高2）・原田（高1）  
がベスト32に入った。

年が明け、1月4日に第15回ニッタク  
杯争奪笠岡市卓球大会に出場した。

1月6日に67回中国高等学校卓球選手  
権大会 補助員講習会兼 強化練習会に  
佐能（高2）・栗田（高2）・山本が参加  
した。

1月13日に第47回全国高等学校選抜卓  
球選手権大会岡山県予選会に出場した。

男子シングルスでは、山本がベスト16・  
佐能がベスト32に入った。

2月11日に第37回山陽新聞社杯争奪卓  
球選手権大会（一般の部）に参加した。  
男子シングルスでは、山本が予選を突破  
し決勝トーナメントに進んだが初戦で敗  
退となった。

2月16日に第24回八杉杯争奪オープン  
卓球選手権大会に参加した。男子ダブル  
スでは、山本・難波（中3）組が予選リ  
グ2位となり2次リーグに進んだがその  
中で2位となり検証トーナメントには進  
むことができなかった。また、高戸（高  
1）・小野（中3）組が予選リーグで4位、  
2次リーグで1位となり決勝トーナメン  
トに進み、優勝した。

2月24日に2019年度岡山県卓球協  
会加盟団体戦に参加した。1次リーグで  
5位になり、順位決定戦で9位となった。

《高野球部》 11月23日に行われた金光3  
校交流会で、金光八尾高校と金光大飯高  
校に勝利し、2年連続で優勝した。現在  
は毎週日曜日に紅白戦を行い、春のシー  
ズ員員に向けて実戦感覚を養っており、  
メンバー争いも熾烈を極めており、  
《中サッカー部》 百間川サッカーフェス

ティバルが12月26日・27日に行われた。  
対高松中学校（1-12）、対富山中学校（1  
-4）、対大安寺中学校（1-3）、対香  
和中学校（3-3）、対伊里中学校（0  
-7）、対高島中学校（5-1）であった。

《高サッカー部》 岡山県高校サッカー新  
人大会備中地区予選会1次リーグが12月  
15日・21日・22日に行われた。対笠岡（1  
-7）、対おかやま山陽（0-9）、対玉  
島商業・高梁城南（2-1）。12月28日・  
29日には、福山ウインターユースフェス  
ティバルに参加した。対崇徳FC（0-  
4）、（0-0）、対神辺（負け）、対大門  
B（0-4）、対坂出第一（2-1）。1  
月2日には毎年恒例のOB会を開催し  
た。保護者の方々を含めると、昨年を超  
える90名以上（おそらく最多）の参加が  
あった。久々に顔を合わせた先輩、後輩、  
仲間たちと共に初蹴りをして楽しい時間  
を過ごすことができた。新人大会備中  
地区予選会代表決定戦が1月12日に行わ  
れ、対翠松（0-5）。2月11日に練習  
試合を行った。対玉島（2-1）（0-  
2）。

《中・高剣道部》（稽古始め・寒稽古初日）  
令和2年1月2日（木）、稽古始め、寒

稽古初日の稽古ののち、OB・OG稽古  
会を開催し、多くの先輩方と交流し、快  
い汗を流した。

《寒稽古》 1月2日（木）～11日（土）  
まで寒稽古を実施した。寒稽古納会では、  
浅野優斗（中学3年・3年連続）、才野  
恵翔（中学1年）の2名に皆勤賞を授与  
し、恒例のぜんざいをいただきながら、  
全員の健闘をたたえ合った。

《中高少林寺拳法部》 12月22日（日）に  
広島県立総合体育館において開催された  
第1回中国高等学校少林寺拳法新人大会  
に出場した。男子単独演武の部で坂本莉  
来（高2）が第一位、女子単独演武の部  
で能勢采奈（高2）が第六位。女子組演  
武の部で虫明紗桜理（高1）・難波日奈  
子（高1）が第四位となった。

《中男子バスケットボール部》 1月12・  
13日に備南西地区及び玉島地区の中学校  
で大会が行われた。初日の予選リーグで  
は全勝し1位で、翌日の決勝トーナメン  
トへ進出した。決勝トーナメントでは初  
戦で笠岡東中学校と対戦し、81-40で勝  
利し決勝に進んだ。決勝では鴨方中学校  
と対戦し、101-26で勝利し、今大会を優  
勝で終えた。

《高男子バスケットボール部》 1月に行われた第72回 岡山県高等学校バスケットボール新人優勝大会 兼 令和元年度中国高等学校バスケットボール新人大会 岡山県予選会に出場し、1回戦は津山工業高校と対戦し69―86で勝利し、2回戦は岡山工業高校と対戦し91―54で敗れベスト8になった。

仁科日向・土屋勇弥(高1) が国体に向けての選手育成を目指した岡山県バスケットボール協会のU16育成選手に推薦され、練習会に参加した。また、土屋勇弥(高1) は中国バスケットボール協会のU18中国ブロック強化選手に選ばれ、2月に行われたU18中国ブロック強化合宿に参加した。

《高女子バスケットボール部》 現在、部員9名(高2 5名、高1 4名)で来年度の県総体に向けて日々練習に励んでいる。今は個人の技術向上とともに、どの練習にも実践感覚を持って取り組み、部員間のコミュニケーションを大事にしながら、考えるバスケットを実践している。

《中男子バレーボール部》 令和元年度後半の戦績

新チームとして9月の支部大会では優勝。10月の地区大会でも優勝。11月の県大会でも優勝。2月に行われた中国大会では健闘するもベスト8。3年連続の全国大会を目指している。

《ダンス部》 12月15日 公民館で行われた浅口キッズフェスティバルに中学生が参加。日頃の練習の成果を発揮した。

《かるた同好会》 週1〜2回、宗教教室で競技かるたの練習を行った。2カ月に1度の割合で、岡山県かるた協会長の長原先生に指導をして頂いた。12月22日(日)に行われた岡山県かるた協会主催の初心者大会に高2橋本花穂・藤井みなみ・川上裕加・阿部七菜子・齋藤百花が出演し、それぞれ4試合ずつ行った。川上裕加が2勝、橋本花穂が1勝、藤井みなみが1勝、齋藤百花が1勝した。

《歴史研究同好会》 来年度のほつま祭に向け、準備を始めた。

《花道同好会》 毎週水曜日に宗教教室で兼信先生の指導の下、熱心に稽古した。

## 探究活動における1年間の受賞記録

7月に「山陽学園大学地域マネジメントコンテスト2019」で高田(高2)、古江(高2) が岡山商工会議所会頭賞を受賞した。また、「高校生ボランティアアワード2019」で白石踊800年の伝統を受け継ぐ会(代表高3渡辺) がマイナビ賞を受賞した。

8月に「福知山公立大学2019地域活性化策コンテスト田舎力甲子園」で白石踊800年の伝統を受け継ぐ会(代表高3渡辺) が奨励賞を受賞した。

10月に「第11回坊ちゃん科学賞研究論文コンテスト」で八方(高3)、中塚(高3) が優秀賞を受賞した。

11月に「第23回ボランティア・スピリット・アワード中国ブロック

表彰式」で白石踊800年の伝統を受け継ぐ会(代表高3渡辺) がブロック賞を、田中(高1) がコミュニケーション賞を受賞した。また、「岡山イノベーションコンテスト2019」に高3渡辺(高3)、和田(高2) 組と梶谷(高2) がファイナリストとして出場し、渡辺(高3)、和田(高2) 組が大賞を受賞した。また、「徳山大学第3回高校生ビジネスプランコンテスト」で吉賞(高3) が奨励賞を受賞した。

12月に「第7回高校生ビジネスプラン・グランプリ」で渡辺(高3)、吉賞(高3)、和田(高2) がベスト10に入り最終選考へ出場、梶谷(高2)、高田(高2)、古江(高2)、中務(高2)、三宅(高2) がベスト10を受賞した。また、「第5回高校生による岡山の歴史・文化フォーラム」で梶谷(高2)、中務(高2)、三宅(高2) が山陽新聞社賞を受賞、高田(高2)、古江(高2) が優秀賞を受賞した。また、「兵庫大学現代ビジネスプラン・コンペ」で梶谷(高2) が優秀賞を受賞、高田(高2)、古江(高2) が現代ビジネス賞を受賞

した。また、「第23回ボランティア・スピリット・アワード全国表彰式」で白石踊800年の伝統を受け継ぐ会(代表高3渡辺) が文部科学大臣賞を受賞した。

1月に「第7回高校生ビジネスプラン・グランプリ最終選考」で渡辺(高3)、吉賞(高3)、和田(高2) が審査員特別賞を受賞した。また、「第14回龍谷大学高校生ビジネスアイデアコンテスト」で古江(高2) が審査員賞とオーディエンス賞を受賞した。また、「集まれ! 科学への挑戦者研究発表会」で青木(高2)、玉川(高2)、藤波(高2)、三谷(高2) が奨励賞を受賞した。

2月に「千葉商科大学地域再発見コンテスト」で渡辺(高3)、吉賞(高3)、和田(高2) が優秀賞を受賞した。



## 学園だより

### 中学入学試験(適性検査型)

12月8日、180名が志願していた中学入学試験(適性検査型)が行われた。専願合格者は12月20日までに、併願合格者は2月7日までに手続きを完了した。

### 進路委員会

12月2、3日、高3では生徒の志望校について詳しく検討し、受験を控えてより良い指導ができるよう話し合った。5日に高2で、6日に高1でそれぞれに行い、現在の学力分析を基に今後の指導方針を検討した。

### 個別面談

中高の全クラスで、個別に2者あるいは3者で行った。中学校では、2学期を振り返り冬休みの過ごし方について、高1や高2では進路を見据えての教科選択について、高3では進路委員会の結果を基に受験大学について相談した。エンパワーメントプログラム 12月22日、25日、外国人4名を迎え、オールイングリッシュでの発信型授業を行った。

### 終業式

12月24日、2学期終業式が中高合同で行われた。

### ウインターチャレンジ

12月25日、27

日、高1・高2特別進学クラス全員と総合進学クラスの希望者を対象にウインターチャレンジを実施した。3日間で集中して発展的な学習に取り組んだほか、自主学習と小テストにより基礎的内容を定着させた。

### 中学入学試験(教科型)

1月4日、21名が志願していた中学入学試験(教科型)が行われた。合格発表は8日に行われ、専願合格者は1月17日までに、併願合格者は2月7日までに手続きを完了した。2月9日には、入学までの指導や制服の採寸のための招集があった。

### 始業式

1月8日、3学期始業式が中高合同で行われた。校長式辞・高3生徒(守屋鮎衣さん)の決意表明・生活課よりの諸注意があった。また、12月から来校していたオーストラリアの姉妹校ラッドフォードカレッジからの短期留学生オリバー・ジョンストンくんがお別れの言葉を述べた。

### 街頭交通指導

毎月1日は生活課の教員が、またその他にも定期的に学年団の教員が通学路に立ち、交通安全や通学マナーについての指導を行った。

### センター試験

1月18・19日に実施さ

れた大学入試センター試験には、高3生徒174名が出願し、くらしき作陽大学、川崎医療福祉大学、中国学園大学の3会場を受験した。

### 中学生徒会長選挙

1月24日に行われた来年度の中学生徒会長選挙の結果、会長には2年の磯川和くんが、副会長には2年の原田大地くんと2年の平井ひよりさんが選ばれた。

### 学校保健委員会

1月24日、校医、やつなみ保護者会、教職員、生徒会の代表で構成される学校保健委員会が開催され、本校の健康実態や保健委員会の活動報告等がなされた。学校歯科医 平田基弘氏に「歯科予防について」という講演をしていただいた。

### 進路委員会

1月25日、高3ではセンター試験の自己採点の結果を基に、2次試験に向けての出願を検討した。その後、個人面談を実施し生徒は出願した。

### 進路学習

1月28日、中1は高3生徒の話聞き、普段の過ごし方や進路について考えることができた。2月4日、中2は8分野にわたる様々な職業の方からグループ毎にお話を聞き、働くことの意味・楽しさ・苦労などを学び、これから

の進路を考えることに役立てた。1月28日、中3は高3生徒の話聞き、高校入学後の心構えや大学受験に関する経験談をもとに進路を考える機会を持った。

### 朝の寒心行

1月27日から2月1日にかけて、木綿崎ポランティア部が主催する寒心行があり、横山勝先生、日笠陽介先生、中村文音先生、久保田光盛先生、金光道晴校長が講話を行った。

### 高校入学試験

1月30日に推薦入試(専願)と一般入試(専願・併願)が行われ、それぞれに17名、75名の中学生が志願した。推薦と一般入試は2月3日に、それぞれの保護者宛に選考の結果が通知され、専願合格者は7日までに手続きを終え、9日の招集日に入学までの諸連絡を聞いた。

### 主権者教育

1月31日、高2は岡山県選挙管理委員会事務局の石原貴史氏を講師に迎え、選挙出前授業「未来の岡山県知事選挙」を行った。事前に実施した選挙に関するアンケート結果や当日の授業内容を踏まえ、代表生徒3名の候補に対して模擬選挙を実施することで、政治に参画することの大切さを学んだ。

### 美術館見学

2月6日、中3は美術の授業の一環で、総合学習として、事前学

習の後に倉敷美観地区の大原美術館・民芸館・自然史博物館などへ行き、古今東西の有名な美術品を鑑賞した。

### 学年集会

2月14日、中1は120大講義室でイングリッシュリサイタルを行い、学年代表者による英語エッセイの発表や全体合唱を保護者に披露した。2月19日、中2は浅口市民会館金光で修学旅行事前学習発表を行い、学年の団結を誓うとともに今年度の総括の場とした。

### 高2芸術選択者発表会

2月15日、音楽選択者は練習の成果を浅口市民会館金光での演奏会で発表した。1月から3月にかけて、美術・書道の選択者はそれぞれ作品を校内に展示し発表した。

### 外務省ODA出前講座

2月21日、外務省国際協力局政策課の川口由里子氏をお迎えし、「外務省とODA 私たちが世界にできること」という演題で講演をいただいた。その後、希望者による座談会を行った。

### 卒業式

2月29日、第72回高校卒業式が1部は厳かに、2部は和やかに行われ、196生徒が学園を巣立った。

### ◇教主金光様のおじいば

本日はおめでとーございます。ただ今、

代表の方がお願いされましたように、これからも学園生活で培われたものを大切に、皆さんそれぞれに進路に向かって、世話になる全てに礼をいう心をもって進んでいかれますよう、祈つてやみません。

### 臨時休業

新型コロナウイルスの影響により、高校卒業式の縮小、学年末考査の中止等、様々な行事において中止や延期、縮小しての実施を余儀なくされた。国内の情勢に鑑み、3月3日、17日まで臨時休業としたが、学力保障の観点から3月5日、12日を生徒の出勤日とした。



### お悔やみ

藤井尚事務長の御尊父には12月9日に、北川弘樹先生の御母堂には12月11日に、角田健先生の御丈母には12月13日に、森谷光子先生の御母堂には1月2日に、山本善直中学教頭の御母堂へ、山本澄枝先生の御丈母には1月17日にご逝去、謹んでお悔やみ申し上げます。

# 教室の窓から

私が本校に赴任したのは6年前、つまりこの卒業を迎えた生徒たちのうち、中学から金光学園に通っている生徒たちとほぼ同じ期間をこの学園で過ごしてきた。ずっと高校で働いてきた私にとって、当時中学1年生だった彼らを初めて見た時は本当に小さく感じ、「小学生がいる。」と見間違えたほどであった。そんな彼らが中学3年次の体育会を手伝ったことがあるが、その時の元氣な応援姿、高い競争力、そしてお互いに声を掛け合うチームワークは実に素晴らしかった。半年後、高校生になった彼らと私は再会し、以来、英語担当として、またクラス担任として共に歩んできた。

高3になった彼らが挑んだ大学受験は全国的に「安全志向」と言われている。

来年度に大学入試センター試験から大学入試共通テストへ変わるからだろう。浪人を避け、レベルを下げてでもなんとか現役で合格したいという学生が例年よりも多いという。私のクラスの生徒たちの多くも早くから推薦・AOの対策を始め、夏休み前からほぼ毎日のように志望理由書の作成、小論文や面接の対策に取り組んできた。推薦・AO入試は彼らには非常に相性が良いと言える。本校の生徒は多くの行事を通して調べ学習、プレゼンテーション、ポスター発表などを行ってきたことから、自分の経験や意見を伝える能力が高いように感じられる。実際に、指導を通して彼らの発信力の高さには驚かされ、とても有意義な時間であった。

幼かった彼らが心身ともに成長し、堂々と夢や目標を語る姿は頼もしかった。きっと4月には良い結果報告ができることを確信している。

## 編集後記

新型コロナウイルスの被害は甚大であったと言えよう。3月上旬現在、身の周りに感染者が増えそうな気配はまだない。それなのに、高校卒業式の縮小や学年末考査の中止、長期間にわたる休校等、学園関係者のすべてが少なからぬ影響を受けている。

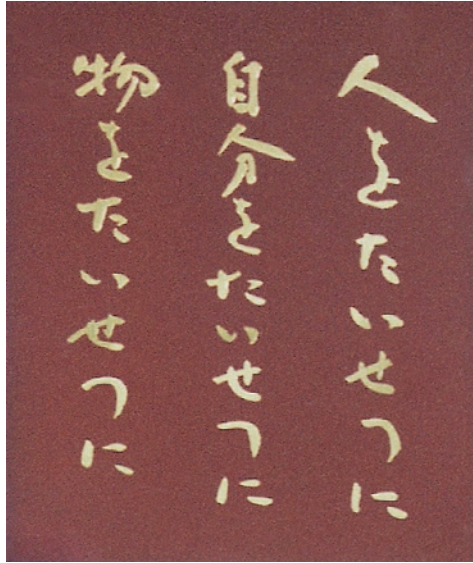
そのような中ではあるが、「やつなみ」の編集作業はつがなく進行した。気掛かりなのは、予定通りに皆さまのお手許に届くかどうか、ということである。今号をお読みいただける頃には、果たして事態は収束に向かっているのだろうか。当たり前だが一刻も早く戻って来れることを、何より生徒・保護者・教職員の方々の皆様の平穩無事を切に願う。

令和2年3月11日印刷  
3月16日発行

編集者 金光学園やつなみ保護委員会  
やつなみ編集部  
印刷所 倉敷市船穂町船穂二〇九五―一  
玉島活版所  
発行所 浅口市金光町占見新田一三五〇  
金光学園内  
金光学園やつなみ保護委員会

## 高2 芸術選択者発表会





◎ほつま = 秀真

非常に優れ整い備わっていることの意。

「日本という国」の古異名の一つ。

創立後、生徒会や冊子の名に使用。

ほつま体育館、ほつま祭などで使われる。

.....  
◎やつなみ = 八波

どこまでもひろがり栄えゆく願いをこめる。

金光教・学園・中学・高校の徽章のふちどり。

P T A機関誌創刊当時、会員から公募してつけた。

人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに

<http://www.konkougakuen.net>

E-mail [info@konkougakuen.net](mailto:info@konkougakuen.net)